

4 監 査 第 4 1 号

令和4年8月22日

京丹後市長 中 山 泰 様

京丹後市監査委員 鈴 木 修 一

京丹後市監査委員 川 戸 一 生

令和3年度京丹後市公営企業会計決算の審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により、審査に付された令和3年度京丹後市公営企業会計（水道事業会計・下水道事業会計・病院事業会計）の決算について審査したので、別紙のとおり意見書を提出します。

令和 3 年 度

京丹後市公営企業会計決算審査意見書

京丹後市水道事業会計

京丹後市下水道事業会計

京丹後市病院事業会計

京丹後市監査委員

目 次

第1	審査の概要	1
1	審査の対象	1
2	審査の期間	1
3	審査の方法	1
第2	審査の結果	1
【水道事業会計】		
1	事業の概況	5
2	予算執行状況（税込）	5
(1)	収益的収入及び支出	5
(2)	資本的収入及び支出	6
3	経営成績（税抜）	8
4	財政状態（税抜）	9
5	むすび	10
	決算審査資料	13
【下水道事業会計】		
1	事業の概況	25
2	予算執行状況（税込）	25
(1)	収益的収入及び支出	25
(2)	資本的収入及び支出	26
3	経営成績（税抜）	28
4	財政状態（税抜）	29
5	むすび	30
	決算審査資料	33
【病院事業会計】		
1	事業の概況	45
(1)	入院患者の状況	45
(2)	外来患者の状況	45
(3)	訪問看護事業の状況	46
(4)	通所リハビリテーション事業の状況	46
2	予算執行状況（税込）	46
(1)	収益的収入及び支出	46
(2)	資本的収入及び支出	48
3	経営成績（税抜）	49
4	財政状態（税抜）	50
5	むすび	52
	決算審査資料	55

第1 審査の概要

1 審査の対象

令和3年度京丹後市水道事業会計決算
令和3年度京丹後市下水道事業会計決算
令和3年度京丹後市病院事業会計決算
上記各会計決算附属書類

2 審査の期間

令和4年6月29日から令和4年8月22日

3 審査の方法

審査に当たっては、市長から提出された各事業会計の決算書及び附属書類が、地方公営企業法及び関係法令に準拠して作成され、計数が正確であるか、各事業の経営成績及び財政状態が適正に表示されているかを確認するため、関係諸帳簿と照合したほか、関係職員から説明を聴取して実施した。

第2 審査の結果

審査に付された各事業会計決算書及び附属書類は、地方公営企業法及び関係法令に準拠して作成されており、これらに記載された計数は正確で、経営成績及び財政状態を適正に表示していると認められた。また、予算の執行及び関連する事務の処理は、おおむね適正に行われているものと認められた。

審査の結果の詳細は、以下のとおりである。

なお、文中及び表中の数値は、四捨五入を基本として（収入率及び執行率は、小数点第2位を切捨て）表示しているため、合計等の数値が一致しない場合がある。

京丹後市水道事業会計

1 事業の概況

事業の概要は、別表1のとおりである。

令和3年度末現在の給水人口は、49,460人で前年度に比べて775人減少したが、給水件数は24,197件で、前年度に比べて97件増加となっている。

前年度に比べて、年間総有収水量は5,711,918 m³と97,672 m³減少し、年間総配水量は7,082,951 m³と333,772 m³の減少となっている。

有効率は84.28%で対前年度比3.24ポイントの増加、有収率も80.64%で対前年度比2.31ポイントの増加となっている。

給水人口が年々減少していることに加え、社会経済情勢や生活様式の変化に伴う市民の節水意識の向上などによる水需要の変動については、引き続き注視していかねばならない。

管路の状況は、次のとおりである。

(単位：km、%)

区 分	令和3年度	令和2年度	令和元年度
管路総延長	793.80	785.90	812.52
石綿管総延長	6.98	11.05	14.43
石綿管布設率	0.9	1.4	1.8

管路総延長793.80kmのうち、石綿管は6.98km(0.9%)と4.07kmの改善が図られているが、有収率の向上を図る上からも、引き続き老朽管の布設替等が必要である。令和5年度の単独実施分の布設替の完了を目標に、早急かつ効率的に更新を進められたい。

2 予算執行状況(税込)

(1) 収益的収入及び支出

収益的収入の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書P4, P5及び別表2参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	増減額	収入率
水道事業収益	1,482,208	1,496,532	14,324	101.0
営業収益	1,175,735	1,198,013	22,278	101.9
営業外収益	306,473	298,519	△7,954	97.4

収益的収入である水道事業収益は、予算額14億8,220万8千円に対して決算額14億9,653万2千円で、収入率は101.0%となっている。これは、給水収益が2,218万9千円予算額を上回った一方で、消費税及び地方消費税還付金が1,120万7千円予算額を下回ったことなどによるものである。

収益的支出の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P4, P5 及び別表 2 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	不用額	執行率
水道事業費用	1,608,537	1,477,596	130,941	91.9
営業費用	1,466,371	1,350,534	115,837	92.1
営業外費用	132,166	127,062	5,104	96.1
予備費	10,000	0	10,000	0.0

収益的支出である水道事業費用は、予算額 16 億 853 万 7 千円に対して決算額 14 億 7,759 万 6 千円で、執行率は 91.9%である。不用額の主なものは、営業費用で原水及び浄水費 7,029 万 1 千円、配水及び給水費 3,051 万 7 千円である。

(2) 資本的収入及び支出

資本的収入の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P6, P7 及び別表 3 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	増減額	収入率
資本的収入	1,758,395	943,771	△ 814,624	53.7
加入金	11,543	11,819	276	102.4
企業債	987,900	454,300	△ 533,600	46.0
補助金	9,220	9,220	0	100.0
出資金	749,732	468,432	△ 281,300	62.5

資本的収入は、予算額 17 億 5,839 万 5 千円に対して決算額 9 億 4,377 万 1 千円で、収入率は 53.7%である。これは、予算額に対して企業債が 5 億 3,360 万円、他会計出資金が 2 億 8,130 万円下回ったことによるものである。

資本的支出の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P6, P7 及び別表 3 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
資本的支出	2,502,922	1,562,003	867,273	73,646	62.4
建設改良費	1,887,618	946,700	867,273	73,645	50.2
企業債返還金	615,304	615,303	0	1	100.0

資本的支出は、予算額 25 億 292 万 2 千円に対して決算額 15 億 6,200 万 3 千円で、8 億 6,727 万 3 千円を翌年度に繰り越し、執行率は 62.4%となった。主な不用額は、施設改良事業費 7,362 万 3 千円である。翌年度繰越分の内訳は、施設改良事業費 2 億 3,440 万円、中野浄水場更新整備事業費 5 億 7,547 万 3 千円、中野水系配水池更新整備事業費 5,740 万円である。

主な施設整備の状況は、次のとおりである。

(決算書 P22～P24 参照)

(単位：千円)

区 分	内 容	金 額	
建設改良 (500 万 円以上)	導水 施設	令和 2 年度 小浜浄水場導水管布設替工事	51,257
	浄水 施設	令和 3 年度 荒木野浄水場薬品注入設備取替工事	5,279
		中野浄水場更新工事 (機械設備)	40,410
		中野浄水場更新工事 (受変電設備)	55,193
		中野浄水場更新工事 (機械設備工事)	22,922
		中野浄水場更新工事 (建築主体工事)	217,586
		中野浄水場更新工事 (電気設備工事)	12,263
		中野浄水場更新工事 (既設管理棟解体工事)	46,143
	送水 施設	令和 3 年度 磯地区送水管布設工事その 1	25,774
	配水 施設	善王寺地区管渠布設工事その 27	14,218
		網野地区管渠布設工事その 49	17,876
		木津地区管渠布設工事その 19	11,705
		浅茂川地区管渠布設工事その 7	17,094
		令和 2 年度 市道宇川斉宮線道路改良に伴う配水管布 設替工事	9,775
		小浜地区管渠布設工事その 6 (水道単 独分)	7,917
		網野処理区 和田野統合管渠布設工事その 5 (水道単 独分)	11,814
		令和 2 年度 浅茂川地区配水管布設工事	15,972
		令和 2 年度 畑地区配水管布設替工事その 2	56,509
		網野地区管渠布設工事その 51 (水道単 独分)	12,233
		令和 3 年度 延利地区配水管布設替工事	13,138
		令和 3 年度 久美浜 (西本町) 地区配水管布設替工事	7,074
		令和 3 年度 新庄地区配水管布設替工事その 1	44,663
		浅茂川地区管渠布設工事その 10 (水道単 独分)	10,684
		網野処理区 和田野統合管渠布設工事その 6 (水道単 独分)	9,492
		令和 3 年度 新治地区配水管布設替工事	25,374
		新治地区内漏水に伴う配水管布設替工事	8,186
		令和 3 年度 関地区配水管布設替工事	7,640
		浅茂川地区管渠布設工事その 12 (水道単 独分)	5,247
		善王寺地区管渠布設工事その 28 (水道単 独分)	8,092
		浅茂川地区管渠布設工事その 13 (水道単 独分)	5,160
		浅茂川地区管渠布設工事その 14 (水道単 独分)	14,730
		小浜地区管渠布設工事その 7 (水道単 独分)	9,134
	令和 3 年度 市道長田妹線道路改良工事に伴う配水管 布設替工事	19,634	
令和 3 年度 岡田地区配水管布設替工事	16,854		

安全で安心な水道水の安定供給を図るために、中野浄水場更新工事、下水道工事及び京都府の道路改良工事に併せた老朽管の布設替工事などが計画的に実施されている。中野浄水場更新工事は、将来を見通した的確な財務分析による計画的かつ効率的な事業推進を期待するものである。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額 6 億 1,823 万 2 千円は、消費税及び地方消費税資本的収支調整額 8,416 万 8 千円、過年度分損益勘定留保資金 5 億 3,406 万 4 千円で補てんしている。(別表 3-(3) 参照)

3 経営成績（税抜）

損益計算書による経営成績は、次のとおりである。

(決算書 P8 及び別表 4 参照)

(単位：千円、%)

区 分	令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年度
総 収 益 (A)	1,370,602	1,342,097	1,370,966	660,461
総 費 用 (B)	1,438,575	1,496,738	1,535,088	704,256
純 損 益	△ 67,973	△ 154,641	△ 164,122	△ 43,795
比率 (A)/(B)	95.3	89.7	89.3	93.8

総収益 13 億 7,060 万 2 千円に対して総費用は 14 億 3,857 万 5 千円で、差し引き 6,797 万 3 千円の純損失となっている。この結果、前年度繰越欠損金 2 億 3,961 万 3 千円を加え、当年度未処理欠損金は 2 億 8,035 万 1 千円と増加した（別表 9 参照）。

総収益は、営業収益の給水収益（水道料金）が 5,092 万円増加したことなどにより、前年度に比べて 2,850 万 5 千円（2.1%）の増加となった。

総費用は、前年度に比べて 5,816 万 3 千円（3.9%）減少した。営業費用では原水及び浄水費が 2,604 万 9 千円、配水及び給水費が 1,014 万 2 千円増加し、減価償却費が 8,139 万 3 千円減少している。

有収水量 1 m³当たりの供給単価及び給水原価は、次のとおりである。

(決算書 P24 及び別表 1 参照)

(単位：千円、%)

区 分	令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年度
供給単価 (A)	186.99	175.08	184.41	184.94
給水原価 (B)	223.62	222.06	231.60	201.68
利益 (A)-(B)	△ 36.63	△ 46.98	△ 47.19	△ 16.74

供給単価は前年度（3 か月間の月額基本料金免除）に比べて 11 円 91 銭、給水原価は 1 円 56 銭高くなっている。その結果、有収水量 1 m³当たりの赤字額は前年度に比べて 10 円 35 銭減少し、36 円 63 銭となった。給水人口の減少とともに、節水意識の

向上、節水型家電製品の普及などによって水需要の増加が見込めないことや、施設整備等で減価償却費が大きくなる傾向から、慢性的な赤字経営体質であることを示している。

また、総収支比率は、別表 5 のとおり 95.3%と 12 年連続して純損失を生じており、経常収支比率も 95.3%で 11 年連続の単年度赤字となったが、この経営の安定に関する指標については毎年改善されている。

4 財政状態（税抜）

貸借対照表による財政状態は、次のとおりである。

（決算書 P14, P15 及び別表 6～9 参照）

（単位：千円、%）

区 分		令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度
資産	固定資産	15,670,682	15,371,684	15,459,696
	流動資産	1,641,522	1,650,912	1,542,027
	計	17,312,204	17,022,596	17,001,723
負債	固定負債	8,429,841	8,594,318	8,757,121
	流動負債	1,049,407	976,266	891,002
	繰延収益	3,307,890	3,327,688	3,395,256
	計	12,787,138	12,898,272	13,043,379
資本	資本金	4,308,216	3,838,481	3,517,860
	剰余金	216,850	285,843	440,484
	計	4,525,066	4,124,324	3,958,344
負債資本合計		17,312,204	17,022,596	17,001,723

資産の総額は 173 億 1,220 万 4 千円で、前年度に比べて 2 億 8,960 万 8 千円 (1.7%) 増加している。固定資産は、機械及び装置が 1 億 9,952 万 8 千円減少した一方で、構築物が 1 億 3,764 万 1 千円、建設仮勘定が 3 億 8,028 万 2 千円増加した。流動資産は、現金預金が 9,871 万 2 千円減少した一方で、未収金が 1,660 万 6 千円、前払金が 7,363 万 5 千円増加したことなどによるものである。

流動資産である水道料金の未収金の状況は、次のとおりである（別表 10 参照）。

令和 4 年 3 月 31 日現在

（単位：件、千円）

区 分	令和 3 年度		令和 2 年度		令和元年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
未収金	43,717	177,324	43,202	181,100	43,711	171,427
不納欠損	66	381	128	358	961	1,979
債権放棄	66	381	128	358	961	1,979
債権消滅等	0	0	0	0	0	0

未収金の総額は1億7,732万円4千円で、前年度に比べて377万6千円減少（件数は515件増加）している。また、京丹後市債権の管理に関する条例に基づき、債権放棄66件、38万1千円の不納欠損を処理した。

負債の総額は127億8,713万8千円で、前年度に比べて1億1,113万4千円減少した。固定負債の減少は、企業債1億6,447万7千円の減によるものであり、流動負債の増加は、未払金が4,060万4千円減少したものの、一時借入金5,370万円、前受金が5,320万円増加したことなどによるものである。

資本の総額は45億2,506万6千円で、前年度に比べて4億74万2千円（9.7%）増加している。資本金の増加は、利益剰余金が6,797万3千円減少（別表9）したものの、自己資本金が4億6,973万5千円増加（別表8）したことによるものである。

企業債の状況は、次のとおりである。

（決算書P29, P36参照）

（単位：千円）

令和2年度 末残高	令和3年度		令和3年度 末残高	令和3年度 支払利息
	発行額	償還額		
9,257,677	508,000	615,303	9,150,374	126,456

企業債残高は91億5,037万4千円で、前年度に比べ1億730万3千円（1.2%）減少した。企業債利息は1億2,645万6千円で、営業収益（税抜）10億9,106万4千円に占める割合は11.6%と、前年度に比べて1.4ポイント減少している。（別表4参照）

5 むすび

水道事業会計の経営成績（税抜き）は、事業収益13億7,060万2千円に対して事業費用は14億3,857万5千円、差し引き6,797万3千円事業費用が上回り、12年連続の当年度純損失となった。また、経常収支についても11年連続の赤字である。従来からの赤字経営体質に加え、令和元年度に行った簡易水道事業の統合によって、より一層厳しい経営状況となっている。

収益面では、少子高齢化及び人口減少による給水人口の減少、節水型家電製品の普及、節水意識の向上などによって水需要の増加が見込めない状況にあり、収益の安定した確保が懸念される。令和3年度は、丹後町域において漏水調査を実施したが、有収率の向上に向けた取り組みを全市的に推進されたい。

費用面では、基幹施設である中野浄水場の更新整備事業や老朽管の布設替工事、また、簡易水道事業の統合により、小規模水道施設が点在するなど、今後も多額の設備投資が必要であり、経営状況はますます厳しいものとなることが予測される。給水原価や有収率などを地区単位で分析することによって、給水人口及び水需要に応じた施設の統廃合や給水エリアの変更が検討され、効率的な事業運営と管理体制が構築

されることを期待する。また、災害対策や緊急時の危機管理等の強化といった点にも留意して、不測の事態が生じても将来にわたって水道事業の健全な運営が確保できるよう備える必要があり、維持管理経費等の更なる削減を図るなど一層の努力が望まれる。特に簡易水道事業の統合によって水道施設数は増加しており、持続可能な水道事業の実施に向けた、施設の統廃合等を考えていくことが必要である。

水道料金については、令和3年度末の未収金の額は1億7,732万円であった。未収金対策として、従来から年4回の給水停止などを実施してきたが、令和3年度については、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の生活への影響を考慮し、給水停止を実施しなかった。徴収の見込めない不良債権については、京丹後市債権の管理に関する条例に基づき不納欠損を処理するなど、滞納整理の努力が見られるが、依然として多額の未収金を抱えている。利用者の負担の公平性の確保と経営の健全化を推し進める観点からも適正な債権の管理は極めて重要であり、今後も引き続き滞納者に対する継続的な働きかけや、新型コロナウイルス感染症の状況を見て、可能であれば給水停止等の措置を行うなど、回収に向けた積極的な対応を求めるものである。また、新たな未納者の発生を防ぐため初期の徴収体制を強化するなど、収納率向上のための対策を講じる必要がある。

水道事業は、市民生活や経済活動に不可欠なものである。近年多発する自然災害などへの危機管理、対応は重要な課題であり、限られた職員数で緊急事態にも迅速に対応できる体制づくりにも取り組む必要がある。このためには、経営基盤の確立や効率的かつ合理的な事業運営に一層努められ、より安全で良質な水道水が安定的に市民に供給されるよう期待するものである。

決算審査資料（水道事業会計）

別表 1	水道事業の概要	14
別表 2	収益的収支予算決算比較（税込）	15
別表 3	資本的収支予算決算比較（税込）	16
別表 4	損益計算書（税抜）	17
別表 5	経営の安定度に関する指標	18
別表 6	資産	19
別表 7	負債	19
別表 8	資本金	20
別表 9	剰余金	20
別表 10	水道料金未収金及び不納欠損額（税込）	21

（注）表中の数値は、基本的に表示数値未満を四捨五入（収入率及び執行率は、小数点第2位を切捨て）しているため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

別表 1

水道事業の概要

項目	年度	令和3年度 (A)	令和2年度 (B)	対前年比	
				増減(C) (A-B)	比率(C/B*100)
給水件数(件)		24,197	24,100	97	0.4%
給水人口(人)		49,460	50,235	△775	△1.5%
配水量					
年間総配水量(m ³)		7,082,951	7,416,723	△333,772	△4.5%
一日最大配水量(m ³)		21,876	23,023	△1,147	△5.0%
一日最小配水量(m ³)		18,290	17,527	763	4.4%
一日平均配水量(m ³)		19,405	20,320	△915	△4.5%
有収水量					
年間総有収水量(m ³)		5,711,918	5,809,590	△97,672	△1.7%
有効率(%)		84.28	81.04	3.24	4.0%
有収率(%)		80.64	78.33	2.31	2.9%
供給単価(円)		186円99銭	175円08銭	11円91銭	6.8%
給水原価(円)		223円62銭	222円06銭	1円56銭	0.7%
資本費(円)		112円73銭	123円15銭	△10円42銭	△8.5%
管路総延長(km)		793.80	785.90	7.90	1.0%
石綿管総延長(km)		6.98	11.05	△4.07	△36.8%
石綿管布設率(%)		0.9	1.4	△0.5	△35.7%

- ・給水人口 定住人口による集計
- ・有効率 $\text{年間総有効水量} / \text{年間総配水量} \times 100$
浄水場から送られた水が途中で漏水することなく、一般世帯などで有効に使用された水量(漏水量を除いた水量)の割合を示す指標
- ・有効水量 有収水量＋無収水量(メーター不感知分、消火栓使用分、管洗浄分等)
- ・有収率 $\text{年間総有収水量} / \text{年間総配水量} \times 100$
浄水場から送られた水がどれだけ料金徴収の基礎となったかを示す指標。数値が高いほど施設効率が良いことを示し、低い場合は漏水、メーターの不感、公共用水、消防用水等いくつかの要因が考えられる。
- ・供給単価 $\text{給水収益} / \text{年間総有収水量}$
有収水量1m³当たりについて、どれだけの収益を得ているかを示す指標。
- ・給水原価 $(\text{経常費用} - \text{長期前受金戻入} - \text{受託工事費}) / \text{年間総有収水量}$
有収水量1m³作るために、どれだけの費用がかかっているかを示す指標。
- ・資本費 $(\text{支払利息} + \text{減価償却費} - \text{長期前受金戻入}) / \text{年間総有収水量}$

別表 2 水道事業収益の収支予算決算比較（税込）

（1）収 入

（単位：千円、％）

科 目 \ 項 目	予 算 額 ①	決 算 額 ②	増減額 ②－①	収 入 率 ②／①
水道事業収益	1,482,208	1,496,532	14,324	101.0
営業収益	1,175,735	1,198,013	22,278	101.9
給水収益	1,152,593	1,174,782	22,189	101.9
その他営業収益	23,142	23,231	89	100.4
営業外収益	306,473	298,519	△ 7,954	97.4
受取利息及び配当金	103	186	83	180.6
府補助金	10,015	10,015	0	100.0
他会計補助金	105,274	105,274	0	100.0
長期前受金戻入	159,176	161,285	2,109	101.3
雑収益	1,905	2,966	1,061	155.7
消費税及び地方消費税還付金	30,000	18,793	△ 11,207	62.6

（2）支 出

（単位：千円、％）

科 目 \ 項 目	予 算 額 ①	決 算 額 ②	不用額 ①－②	執 行 率 ②／①
水道事業費用	1,608,537	1,477,596	130,941	91.9
営業費用	1,466,371	1,350,534	115,837	92.1
原水及び浄水費	467,735	397,444	70,291	85.0
配水及び給水費	162,474	131,957	30,517	81.2
業務費	77,861	69,076	8,785	88.7
総係費	70,404	67,793	2,611	96.3
減価償却費	682,388	678,756	3,632	99.5
資産減耗費	5,509	5,508	1	100.0
営業外費用	132,166	127,062	5,104	96.1
支払利息及び企業債取扱諸費	129,804	126,456	3,348	97.4
雑支出（うち当年度純）	2,362	606	1,756	25.7
予備費	10,000	0	10,000	0.0
予備費	10,000	0	10,000	0.0

別表3 水道事業資本の収支予算決算比較（税込）

(1) 収入

(単位：千円、%)

科目 \ 項目	予算額 ①	決算額 ②	増減額 ②-①	収入率 ②/①
資本の収入	1,758,395	Ⓐ 943,771	△ 814,624	53.7
加入金	11,543	11,819	276	102.4
加入金	11,543	11,819	276	102.4
企業債	987,900	454,300	△ 533,600	46.0
企業債	987,900	454,300	△ 533,600	46.0
補助金	9,220	9,220	0	100.0
府補助金	9,220	9,220	0	100.0
出資金	749,732	468,432	△ 281,300	62.5
他会計出資金	749,732	468,432	△ 281,300	62.5

(2) 支出

(単位：千円、%)

科目 \ 項目	予算額 ①	決算額 ②	翌年度 繰越額③	不用額 ①-②-③	執行率 ②/①
資本の支出	2,502,922	Ⓑ 1,562,003	867,273	73,646	62.4
建設改良費	1,887,618	946,700	867,273	73,645	50.2
固定資産取得費	17,688	17,667		21	99.9
施設改良事業費	820,217	512,194	234,400	73,623	62.4
中野浄水場更新整備事業費	985,215	409,742	575,473	0	41.6
中野水系配水池更新整備事業費	64,498	7,097	57,400	1	11.0
企業債償還金	615,304	615,303	0	1	100.0
企業債償還金	615,304	615,303		1	100.0

(3) 資本の収入額が資本の支出額に対して不足する額

(単位：千円)

項目	金額	備考
資本の収支差引額	Ⓐ-Ⓑ	△ 618,232
補填財源	618,232	
消費税及び地方消費税資本の収支調整額	84,168	
繰越工事資金	0	
過年度分損益勘定留保資金	534,064	
当年度分損益勘定留保資金	0	
利益剰余金	0	

別表 4 水道事業損益計算書（税抜）

（単位：千円、％）

年度 項目	令和3年度 ①	令和2年度 ②	対前年比	
			金額③ (①-②)	比率③/②*100
水道事業収益 (A)	1,370,602	1,342,097	28,505	2.1
営業収益 (C)	1,091,064	1,039,917	51,147	4.9
給水収益	1,068,085	1,017,165	50,920	5.0
その他営業収益	22,979	22,752	227	1.0
営業外収益	279,538	302,180	△ 22,642	△ 7.5
受取利息	186	339	△ 153	△ 45.1
府補助金	10,015	19,235	△ 9,220	△ 47.9
他会計補助金	105,274	99,495	5,779	5.8
長期前受金戻入	161,285	179,427	△ 18,142	△ 10.1
雑収益	2,778	3,684	△ 906	△ 24.6
水道事業費用 (B)	1,438,575	1,496,738	△ 58,163	△ 3.9
営業費用	1,311,555	1,334,251	△ 22,696	△ 1.7
原水及び浄水費	367,929	341,880	26,049	7.6
配水及び給水費	128,534	118,392	10,142	8.6
業務費	64,442	56,745	7,697	13.6
総係費	66,386	50,937	15,449	30.3
減価償却費	678,756	760,149	△ 81,393	△ 10.7
資産減耗費	5,508	6,148	△ 640	△ 10.4
営業外費用	127,020	135,252	△ 8,232	△ 6.1
支払利息 (D)	126,456	134,758	△ 8,302	△ 6.2
雑支出	564	494	70	14.2
特別損失	0	27,235	△ 27,235	△ 100.0
過年度損益修正損	0	0	0	—
資産減耗費	0	0	0	—
その他特別損失	0	27,235	△ 27,235	△ 100.0
当年度純損益 (A)-(B)	△ 67,973	△ 154,641	86,668	△ 56.0
総収支比率 (A)/(B)	95.3	89.7	5.6	/
支払利息/営業収益 (D)/(C)	11.6	13.0	△ 1.4	/

別表5 水道事業経営の安定度に関する指標

(単位：%)

項目 \ 年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	備 考
総収支比率	95.3	89.7	89.3	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ 経営収支の均衡度を総収益対費用の関係で見る指標。高い数値の方が好ましい。この率が100%未満であれば、純損失を生じている。
	類似団体全国 平均値	—	111.6	
経常収支比率	95.3	91.3	90.0	$\frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$ 特別損益を除いた経常的な収支の関係を見る指標。高い数値の方が好ましい。100%を超える場合は単年度黒字を、100%未満は単年度赤字を表す。
	類似団体全国 平均値	—	111.6	
営業収支比率	83.2	77.9	79.6	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事費収益}}{\text{営業費用} - \text{受託工事費}} \times 100$ 通常の営業活動に要する費用を、営業活動に必要なものとして徴収している給水収益等の営業収益で、どの程度賄っているかを示す指標。高い数値の方が好ましい。100%未満の場合は健全経営とはいえない。
	類似団体全国 平均値	—	95.7	

別表 6

水道事業資産

(単位：千円、%)

項目		年度		対前年比	
		令和3年度 (A)	令和2年度 (B)	金額(C) (A-B)	比率(C/B*100)
固定資産	土地	534,880	534,598	282	0.1
	建物	529,363	551,569	△ 22,206	△ 4.0
	構築物	10,993,865	10,856,224	137,641	1.3
	機械及び装置	1,973,857	2,173,385	△ 199,528	△ 9.2
	車両運搬具	2,838	3,517	△ 679	△ 19.3
	工具器具及び備品	47,999	44,793	3,206	7.2
	建設仮勘定	1,587,880	1,207,598	380,282	31.5
	小計	15,670,682	15,371,684	298,998	1.9
流動資産	現金預金	1,208,771	1,307,483	△ 98,712	△ 7.5
	未収金	198,758	182,152	16,606	9.1
	貸倒引当金	△ 31,806	△ 29,727	△ 2,079	7.0
	貯蔵品	10,882	9,722	1,160	11.9
	前払金	254,917	181,282	73,635	40.6
	その他流動資産	0	0	0	—
	小計	1,641,522	1,650,912	△ 9,390	△ 0.6
合計	17,312,204	17,022,596	289,608	1.7	

別表 7

水道事業負債

(単位：千円、%)

項目		年度		対前年比	
		令和3年度 (A)	令和2年度 (B)	金額(C) (A-B)	比率(C/B*100)
固定負債	企業債	8,404,397	8,568,874	△ 164,477	△ 1.9
	引当金	25,444	25,444	0	0.0
	その他固定負債	0	0	0	—
	小計	8,429,841	8,594,318	△ 164,477	△ 1.9
流動負債	一時借入金	127,200	73,500	53,700	73.1
	企業債	618,777	615,303	3,474	0.6
	未払金	175,789	216,393	△ 40,604	△ 18.8
	前受金	111,000	57,800	53,200	92.0
	引当金	14,974	12,770	2,204	17.3
	その他流動負債	1,667	500	1,167	233.4
	小計	1,049,407	976,266	73,141	7.5
繰延収益	長期前受金	4,566,789	4,433,852	132,937	3.0
	収益化累計額	△ 1,258,899	△ 1,106,164	△ 152,735	13.8
	小計	3,307,890	3,327,688	△ 19,798	△ 0.6
合計 (ア)	12,787,138	12,898,272	△ 111,134	△ 0.9	

別表 8 水道事業資本金

(単位：千円、%)

項目		年度	令和3年度 (A)	令和2年度 (B)	対前年比	
					金額(C)	(A-B) 比率(C/B*100)
自己資本金	自己資本金		4,308,216	3,838,481	469,735	12.2
借入資本金	企業債		—	—	—	—
合計 (イ)			4,308,216	3,838,481	469,735	12.2

別表 9 水道事業剰余金

(単位：千円、%)

項目		年度	令和3年度 (A)	令和2年度 (B)	対前年比	
					金額(C)	(A-B) 比率(C/B*100)
資本剰余金	再評価積立金		1,972	1,972	0	0.0
	加入金		17,883	17,883	0	0.0
	補助金		67,948	67,948	0	0.0
	受贈財産評価額		239,589	267,845	△ 28,256	△ 10.5
	寄附金		3,243	3,243	0	0.0
	工事負担金		35,638	35,637	1	0.0
	補償金		—	—	—	—
	小計		366,273	394,528	△ 28,255	△ 7.2
利益剰余金	減債積立金		3,600	3,600	0	0.0
	建設改良積立金		127,328	127,328	0	0.0
	当年度未処分利益剰余金		△ 280,351	△ 239,613	△ 40,738	△ 17.0
	(うち当年度純損益)		(△ 67,973)	(△ 154,641)	(86,668)	(56.0)
	小計		△ 149,423	△ 108,685	△ 40,738	△ 37.5
合計 (ウ)			216,850	285,843	△ 68,993	△ 24.1

資本合計 (イ)+(ウ)	4,525,066	4,124,324	400,742	9.7
負債資本合計 (ア)+(イ)+(ウ)	17,312,204	17,022,596	289,608	1.7

別表10 水道料金未収金及び不納欠損額（税込）

令和3年3月31日現在

（単位：円、件）

	水道料金未収金				不納欠損			
	令和3年度		令和2年度		令和3年度		令和2年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
令和3年度	26,410	108,518,629			5	38,936		
令和2年度	1,209	5,404,706	25,670	111,820,280	12	89,722	7	6,207
令和元年度	944	3,823,692	1,100	4,483,538	12	57,409	10	13,667
平成30年度	855	4,286,558	925	4,540,700	2	5,093	4	15,227
平成29年度	765	2,816,144	815	3,171,247	4	123,552	5	16,957
平成28年度	716	2,908,286	797	3,393,299	11	36,262	32	140,444
平成27年度	695	2,870,406	792	3,370,478	9	20,175	12	32,987
平成26年度	731	3,022,399	836	3,369,581	8	7,149	0	0
平成25年度	766	3,050,481	852	3,317,226	3	2,940	3	2,850
平成24年度	1,102	4,259,816	1,168	4,521,950	0	0	0	0
平成23年度	1,105	3,996,511	1,191	4,387,003	0	0	3	2,850
平成22年度	1,488	5,333,714	1,608	5,815,676	0	0	25	44,870
平成21年度	1,317	4,624,393	1,423	5,036,567	0	0	24	66,790
平成20年度	967	3,291,513	1,055	3,629,009	0	0	3	15,450
平成19年度	712	2,850,139	805	3,199,818	0	0	0	0
平成18年度	675	2,413,699	714	2,544,922	0	0	0	0
平成17年度	458	1,870,592	482	1,962,320	0	0	0	0
平成16年度	359	1,430,480	372	1,490,305	0	0	0	0
平成15年度	515	2,550,335	541	2,628,958	0	0	0	0
平成14年度	460	2,109,160	498	2,264,059	0	0	0	0
平成13年度	393	1,454,465	409	1,497,589	0	0	0	0
平成12年度	268	1,048,087	288	1,097,815	0	0	0	0
平成11年度	219	862,030	243	967,439	0	0	0	0
平成10年度	153	633,992	164	673,062	0	0	0	0
平成9年度	167	691,696	172	696,385	0	0	0	0
平成8年度	114	509,565	124	523,575	0	0	0	0
平成7年度	71	365,940	75	370,559	0	0	0	0
平成6年度	55	179,946	55	179,946	0	0	0	0
平成5年度	28	146,300	28	146,300	0	0	0	0
合計	43,717	177,323,674	43,202	181,099,606	66	381,238	128	358,299

京丹後市下水道事業会計

1 事業の概況

事業の概要は、別表 11 のとおりである。

事業の実績を前年度と比べると、処理区域内人口は 39,559 人で 274 人 (0.7%)、水洗化人口は 28,189 人で 657 人 (2.4%) それぞれ増加している。

排水処理水量については 3,291,801 m³で、前年度と比べて 43,632 m³ (1.3%) の増加となっている。

新規接続件数の状況は、次のとおりである。

(単位：件)

区 分	令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度
新規接続件数	343	305	382
公共下水道	210	178	243
特定環境保全公共下水道	52	54	46
農業集落排水処理施設	20	13	23
漁業集落排水処理施設	0	0	0
浄化槽整備	61	60	70

新規接続件数は 343 件で、前年度と比較して 38 件の増加であった。新型コロナウイルス感染症の影響により、未接続世帯への接続推進が進まなかったことなどが要因であると考えられ、微増に留まった。排水処理水量が減少となったことについては、春季から夏季、また冬季にまん延防止等重点措置の適用や緊急事態宣言の発出などにより、観光入込客数が減少したことと店舗等の営業時間の短縮などが要因である。

2 予算執行状況 (税込)

(1) 収益的収入及び支出

収益的収入の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P4, P5 及び 別表 12 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	増減額	収入率
下水道事業収益	2,363,912	2,388,217	24,305	101.0
営業収益	559,797	559,523	△ 274	100.0
営業外収益	1,804,115	1,825,961	21,846	101.2
特別利益	0	2,733	2,733	皆増

収益的収入である下水道事業収益は、予算額 23 億 6,391 万 2 千円に対して決算額 23 億 8,821 万 7 千円で、収入率は 101.0%となっている。これは、消費税及び地方消費税還付金が 1,932 万 3 千円予算額を上回ったことなどによるものである。

収益的支出の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P4, P5 及び 別表 12 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	不用額	執行率
下水道事業費用	2,647,258	2,442,716	204,542	92.3
営業費用	2,274,701	2,102,792	171,909	92.4
営業外費用	360,057	339,924	20,133	94.4
予備費	12,500	0	12,500	0.0

収益的支出である下水道事業費用は、予算額 26 億 4,725 万 8 千円に対して決算額 24 億 4,271 万 6 千円で、執行率は 92.3%である。不用額の主なものは、営業費用で管渠費 2,665 万 2 千円、処理場費 8,634 万円、浄化槽費 3,336 万 2 千円など、営業外費用では支払利息及び企業債取扱諸費 1,720 万 5 千円である。

(2) 資本的収入及び支出

資本的収入の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P6, P7 及び 別表 13 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	増減額	収入率
資本的収入	3,624,850	2,380,145	△ 1,244,705	65.7
負担金	99,267	96,779	△ 2,488	97.5
企業債	2,236,500	1,343,200	△ 893,300	60.1
補助金	840,669	491,752	△ 348,917	58.5
出資金	448,414	448,414	0	100.0

資本的収入は、予算額 36 億 2,485 万円に対して決算額 23 億 8,014 万 5 千円で、収入率は 65.7%である。主な要因は、予算額に対して企業債が 8 億 9,330 万円、補助金が 3 億 4,891 万 7 円下回ったことによるものである。

資本的支出の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P6, P7 及び 別表 13 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
資本的支出	4,198,440	3,001,049	1,116,200	81,191	71.5
建設改良費	2,732,348	1,534,960	1,116,200	81,188	56.2
企業債償還金	1,466,092	1,466,089		3	100.0

資本的支出は、予算額 41 億 9,844 万円に対して決算額 30 億 104 万 9 千円で、11 億 1,620 万円を翌年度に繰り越し、執行率は 71.5%となった。主な不用額は、管渠整備事業費 4,211 万 3 千円、管渠改良事業費 1,286 万 6 千円、浄化槽整備事業費

1,910万2千円である。翌年度繰越分の内訳は、管渠整備事業費、管渠改良事業費、処理場改良事業費、浄化槽整備事業費である。

主な施設整備の状況は、次のとおりである。

(決算書 P22～P30 参照)

(単位：千円)

区 分	内 容	金 額	
建設工事 (500万円 以上)	管渠 整備 事業	善王寺地区管渠布設工事その 27	34,053
		網野地区管渠布設工事その 49	51,113
		網野処理区 和田野統合管渠布設工事その 3	59,237
		木津地区管渠布設工事その 19	39,367
		浅茂川地区管渠布設工事その 7	86,164
		小浜地区管渠布設工事その 6	42,147
		網野処理区 和田野統合管渠布設工事その 4	21,613
		浅茂川地区管渠布設工事その 9	52,643
		木津地区管渠布設工事その 20	98,581
		網野処理区 和田野統合管渠布設工事その 5	43,768
		長岡地区管渠布設工事その 45	20,912
		浅茂川地区管渠布設工事その 8	29,330
		網野地区管渠布設工事その 51	45,850
		浅茂川地区管渠布設工事その 10	50,076
		網野処理区 和田野統合管渠布設工事その 6	25,799
		河辺地区管渠布設工事その 55	7,274
		善王寺地区管渠布設工事その 28	67,032
		浅茂川地区管渠布設工事その 11	46,355
		浅茂川地区管渠布設工事その 12	35,393
		浅茂川地区管渠布設工事その 13	51,447
		浅茂川地区管渠布設工事その 14	76,787
		向町地区管渠布設工事その 8	5,501
		周枳地区管渠布設工事その 61	12,273
	小浜地区管渠布設工事その 7	56,947	
	口大野地区管渠布設工事その 17	7,872	
	浄化槽 整備 事業	公共浄化槽設置工事その 1	6,185
		公共浄化槽設置工事その 3	6,447
		公共浄化槽設置工事その 15	5,188
		公共浄化槽設置工事その 18	5,603
改良工事 (500万円 以上)	処理場 改良 事業	丹後浄化センター中央監視システム改修工事	13,200
		峰山・大宮浄化センターNo.2 脱水機インバータ盤改修工事	26,400
		橘処理区マンホールポンプ中央監視システム改修工事	6,600

快適な生活環境及び公共用水域の水質を保全するため、管渠及び浄化槽の整備事

業を行い、また、下水道施設の長寿命化のための改良事業などが計画的に実施されている。引き続き、令和10年度の完成を目指して、的確な財務分析による計画的かつ効率的な事業推進を期待するものである。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額6億2,090万4千円は、消費税及び地方消費税資本的収支調整額8,453万6千円、引継金等506万8千円、過年度分損益勘定留保資金1億4,065万8千円、当年度分損益勘定留保資金3億9,064万2千円で補てんしている。(別表13-(3)参照)

3 経営成績（税抜）

損益計算書による経営成績は、次のとおりである。

(決算書P8及び別表14、別表19参照)

(単位：千円、%)

区 分	令和3年度	令和2年度	令和元年度
総 収 益 (A)	2,248,803	2,465,800	—
総 費 用 (B)	2,387,707	2,485,956	—
純 損 益	△ 138,904	△ 20,156	—
比率 (A)/(B)	94.2	99.2	—

総収益22億4,880万3千円に対して総費用は23億8,770万7千円で、差し引き1億3,890万4千円の純損失となっており、当年度未処理欠損金は26億6,923万円となった(別表19参照)。

総収益の主なものは、営業収益の下水道使用料が5億833万8千円、営業外収益の他会計補助金が9億5,158万6千円、長期前受金戻入が7億8,358万7千円であった。

総費用の主なものは、営業費用の処理場費が3億2,563万8千円、浄化槽費が1億2,826万8千円、減価償却費が14億2,941万5千円、営業外費用では企業債支払利息が3億3,229万円であった。今後もインフラの整備が進み、多額の設備投資が必要になる。

有収水量1m³当たりの使用量単価及び処理原価は、次のとおりである。

(別表11参照)

(単位：円)

区 分	令和3年度	令和2年度	令和元年度
使用料単価 (A)	145.80	145.90	—
処 理 原 価 (B)	223.40	237.50	—
利 益 (A)-(B)	△ 77.60	△ 91.60	—

使用料単価は145円80銭、処理原価は233円40銭となった。その結果、有収水量1m³当たりの赤字額は77円60銭となった。

また、総収支比率は、別表 15 のとおり 94.2%、経常収支比率も 94.1%となった。

4 財政状態（税抜）

貸借対照表による財政状態は、次のとおりである。

（決算書 P14, P15 及び別表 16～19 参照）

（単位：千円、%）

区 分		令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度
資産	固定資産	40,283,682	40,313,616	—
	流動資産	829,716	644,801	—
	計	41,113,398	40,958,417	—
負債	固定負債	22,006,751	22,024,439	—
	流動負債	1,972,285	1,870,448	—
	繰延収益	17,606,842	17,845,520	—
	計	41,585,878	41,740,407	—
資本	資本金	1,243,693	795,279	—
	剰余金	△ 1,716,173	△ 1,577,269	—
	計	△ 472,480	△ 781,990	—
負債資本合計		41,113,398	40,958,417	—

資産の総額は 411 億 1,339 万 8 千円で、前年度に比べて 1 億 5,498 万 1 千円 (0.4%) の増加である。固定資産は前年度に比べて 2,993 万 4 千円の減少で、その内訳は構築物が 2 億 9,227 万 1 千円の増加、機械及び装置が 2 億 8,402 万 9 千円、建物が 4,286 万 9 千円の減少などによる。流動資産は前年度に比べて 1 億 8,491 万 5 千円の増加で、その内訳は現金預金が 1 億 8,987 万 5 千円、未収金が 4,474 万円の増加、前払金が 5,037 万 8 千円の減少などである。

下水道使用料及び受益者分担金の未収金の状況は、次のとおりである（別表 20, 21 参照）。

令和 4 年 3 月 31 日現在

（単位：件、千円）

区 分	令和 3 年度		令和 2 年度		令和元年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
下水道使用料未収金	14,833	59,410	14,485	60,440	—	—
不納欠損	312	1,265	306	919	—	—
受益者分担金未収金	145	5,944	141	5,772	—	—
不納欠損	1	52	9	226	—	—

下水道使用料の未収金総額は 14,833 件、5,941 万円で、前年度と比べて件数は 348 件の増加、金額は 103 万円減少し、受益者分担金については 145 件、594 万 4 千円

で、前年度に比べて件数は4件、金額は17万2千円増加している。また、京丹後市債権の管理に関する条例に基づき、下水道使用料は312件、126万5千円、受益者分担金については1件、5万2千円の不納欠損を処理した。

負債の総額は415億8,587万8千円で、前年度に比べて1億5,452万9千円(0.4%)の減少である。固定負債は前年度に比べて1,768万8千円の減少であり、その内訳は企業債のみである。流動負債は前年度に比べて1億183万7千円の増加であり、その内訳は、企業債が4,839万9千円、未払金が1億407万4千円の増加、一時借入金2,110万円、前受金が2,915万8千円の減少などである。

資本の総額はマイナス4億7,248万円で、自己資本金が12億4,369万3千円に対し、資本剰余金は9億5,305万7千円、利益剰余金は26億6,923万円の赤字決算である。

企業債の状況は、次のとおりである。

(決算書 P35, P42 参照)

(単位：千円)

令和2年度 末残高	令和3年度		令和3年度 末残高	令和3年度 支払利息
	発行額	償還額		
23,628,229	1,475,700	1,466,089	23,637,840	332,290

企業債残高は236億3,784万円で、前年度に比べ961万1千円(0.04%)の増加となっている。企業債利息は3億3,229万円で、営業収益(税抜)5億868万9千円に占める割合は65.3%と、昨年度に比べて4.6ポイント減少したが、非常に大きな割合となっている。

5 むすび

下水道事業会計の経営成績(税抜き)は、事業収益22億4,880万3千円に対して事業費用は23億8,770万7千円、差し引き1億3,890万4千円の当年度純損失となった。下水道事業は現在もインフラの整備中であり、基本となる収益の下水道使用料のみでは費用が賄えない状況である。

収益面では、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、未接続世帯への接続推進活動が実施できず、例年に比べて接続率が伸びなかった。また、度重なるまん延防止等重点措置の適用や緊急事態宣言の発出などにより、10月から3月までの下水道使用料の伸びが低かった。今後も下水道使用料の安定した確保を目指し、新規接続の推進を図ることが求められる。

費用面では、処理区域の拡大に伴う管渠等の整備工事など、今後も多額の設備投資が必要であり、経営状況はますます厳しいものとなることが予測される。また、効率的な汚水処理のため、施設の統廃合等が検討され、効率的な事業運営と管理体制が構築されることを期待する。

下水道使用料については、令和 3 年度末の未収金は 5,941 万円、受益者分担金については、594 万円であった。未収金対策として、水道料金と同時に督促状、催告書の発送や分納などを実施した。また、徴収の見込めない不良債権について京丹後市債権の管理に関する条例に基づき不納欠損を処理するなど、滞納整理をされている。利用者の負担の公平性の確保と経営の健全化を推し進める観点からも適正な債権の管理は極めて重要であり、今後も引き続き滞納者に対する継続的な働きかけや給水停止等の措置を行うなど、回収に向けた積極的な対応を求めるものである。また、新たな未納者の発生を防ぐため初期の徴収体制を強化するなど、収納率向上のための対策を講じることが必要である。

下水道事業は、快適な市民生活環境や公共用水域の水質保全に不可欠なものである。令和 10 年度の事業完成を目指し、経営基盤の確立や効率的かつ合理的な事業運営に一層努められるよう期待するものである。

決算審査資料（下水道事業会計）

別表11	下水道事業の概要	34
別表12	収益的収支予算決算比較（税込）	35
別表13	資本的収支予算決算比較（税込）	36
別表14	損益計算書（税抜）	37
別表15	経営の安定度に関する指標	38
別表16	資産	39
別表17	負債	39
別表18	資本金	40
別表19	剰余金	40
別表20	下水道使用料未収金及び不納欠損額（税込）	41
別表21	受益者分担金未収金及び不納欠損額（税込）	41

（注）表中の数値は、基本的に表示数値未満を四捨五入（収入率及び執行率は、小数点第2位を切捨て）しているため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

別表11

下水道事業の概要

項目	年度	令和3年度 (A)	令和2年度 (B)	対前年比	
				増減(C) (A-B)	比率(C/B*100)
行政区域内人口(人)		52,451	53,303	△ 852	△ 1.6%
処理区域内人口(人)		39,559	39,285	274	0.7%
普及率(%)		75.4%	73.7%	1.7%	—
水洗化人口(人)		28,189	27,532	657	2.4%
接続率(%)		71.3%	70.1%	1.2%	—
排水処理水量(m ³)		3,291,801	3,248,169	43,632	1.3%
使用料単価(円)		145円80銭	145円90銭	△ 0円10銭	△ 0.1%
処理原価(円)		223円40銭	237円50銭	△ 14円10銭	△ 5.9%
施設利用率(%)		44.8	41.1	3.7	9.0%
有収率(%)		105.9	106.1	△ 0.2%	△ 0.0%

- ・行政区域内人口 年度末現在における住民基本台帳に登録された人口
- ・処理区域内人口 下水道が整備され処理可能な区域の人口（個人等管理浄化槽人口を除く）
- ・普及率 $\frac{\text{処理区域内人口}}{\text{行政区域内人口}} \times 100$
（行政区域内人口に対する処理区域内人口の割合を表す指標）
- ・水洗化人口 下水道処理区域内において下水道に接続し、使用している人口
（個人等管理浄化槽人口を除く）
- ・接続率 $\frac{\text{水洗化人口}}{\text{行政区域内人口}} \times 100$
- ・使用料単価 $\frac{\text{下水道使用料}}{\text{年間総有収水量}}$
（有収水量1m³あたり、どれだけの収益を得ているかを表す指標）
- ・処理原価 $\frac{\text{経常費用}}{\text{年間総汚水処理量}}$
（有収水量1m³あたり、どれだけの費用がかかっているかを表す指標）
- ・施設利用率 $\frac{\text{晴天時1日平均処理水量}}{\text{晴天時現在処理能力}} \times 100$
（施設の1日平均の利用状況を表す指標）
- ・有収率 $\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{年間総配水量}} \times 100$
（処理した汚水のうち、使用料徴収の対象となる有収水の割合を示す指標）

別表 12 下水道事業収益の収支予算決算比較（税込）

（1）収 入

（単位：千円、％）

科 目 \ 項 目	予 算 額 ①	決 算 額 ②	増減額 ②-①	収入率 ②/①
下水道事業収益	2,363,912	2,388,217	24,305	101.0
営業収益	559,797	559,523	△ 274	100.0
下水道使用料	559,497	559,172	△ 325	99.9
その他営業収益	300	351	51	117.0
営業外収益	1,804,115	1,825,961	21,846	101.2
受取利息及び配当金	0	5	5	-
補助金	1,076	1,080	4	100.4
他会計補助金	951,586	951,586	0	100.0
長期前受金戻入	781,539	783,587	2,048	100.3
雑収益	714	1,180	466	165.3
消費税及び地方消費税還付金	69,200	88,523	19,323	127.9
特別利益	0	2,733	2,733	皆増
引当金戻入益	0	2,733	2,733	皆増

（2）支 出

（単位：千円、％）

科 目 \ 項 目	予 算 額 ①	決 算 額 ②	不用額 ①-②	執行率 ②/①
下水道事業費用	2,647,258	2,442,716	204,542	92.3
営業費用	2,274,701	2,102,792	171,909	92.4
管渠費	119,831	93,179	26,652	77.8
ポンプ場費	44,592	36,323	8,269	81.5
処理場費	442,604	356,264	86,340	80.5
浄化槽費	172,763	139,401	33,362	80.7
水洗化普及費	7,128	5,853	1,275	82.1
業務費	18,448	17,167	1,281	93.1
総係費	24,856	23,398	1,458	94.1
減価償却費	1,429,737	1,429,415	322	100.0
資産減耗費	14,742	1,792	12,950	12.2
営業外費用	360,057	339,924	20,133	94.4
支払利息及び企業債取扱諸費	349,495	332,290	17,205	95.1
雑支出	10,562	7,634	2,928	72.3
予備費	12,500	0	12,500	0.0
予備費	12,500	0	12,500	0.0

別表 13 下水道事業資本の収支予算決算比較（税込）

（1）収入

（単位：千円、％）

科 目 \ 項 目	予 算 額 ①	決 算 額 ②	増減額 ②-①	収入率 ②/①
資本の収入	3,624,850	(A) 2,380,145	△ 1,244,705	65.7
負担金	99,267	96,779	△ 2,488	97.5
受益者負担金	99,267	96,779	△ 2,488	97.5
企業債	2,236,500	1,343,200	△ 893,300	60.1
企業債	2,236,500	1,343,200	△ 893,300	60.1
補助金	840,669	491,752	△ 348,917	58.5
国庫補助金	836,407	487,689	△ 348,718	58.3
府補助金	4,262	4,063	△ 199	95.3
出資金	448,414	448,414	0	100.0
他会計出資金	448,414	448,414	0	100.0

（2）支出

（単位：千円、％）

科 目 \ 項 目	予 算 額 ①	決 算 額 ②	翌年度 繰越額③	不用額 ①-②-③	執行率 ②/①
資本の支出	4,198,440	(B) 3,001,049	1,116,200	81,191	71.5
建設改良費	2,732,348	1,534,960	1,116,200	81,188	56.2
事務費	58,562	53,500		5,062	91.4
固定資産取得費	6,246	5,680		566	90.9
管渠整備事業費	2,381,903	1,253,890	1,085,900	42,113	52.6
管渠改良事業費	37,965	7,699	17,400	12,866	20.3
ポンプ場改良事業費	30,926	30,926		0	100.0
処理場改良事業費	82,716	73,337	7,900	1,479	88.7
浄化槽整備事業費	134,030	109,928	5,000	19,102	82.0
企業債償還金	1,466,092	1,466,089		3	100.0
企業債償還金	1,466,092	1,466,089		3	100.0

（3）資本の収入額が資本の支出額に対して不足する額

（単位：千円）

項 目	金 額	備 考
資本の収支差引額 (A-B)	△ 620,904	
補てん財源	620,904	
消費税及び地方消費税資本の収支調整額	84,536	
引継金	5,068	
過年度分損益勘定留保資金	140,658	
当年度分損益勘定留保資金	390,642	

別表14 下水道事業損益計算書（税抜）

（単位：千円、％）

年度 項目	令和3年度 ①	令和2年度 ②	対前年比	
			金額③ (①-②)	比率(③/②*100)
下水道事業収益 (A)	2,248,803	2,465,800	△ 216,997	△ 8.8
営業収益 (C)	508,689	502,875	5,814	1.2
下水道使用料	508,338	502,563	5,775	1.1
その他営業収益	351	312	39	12.5
営業外収益	1,737,381	1,951,102	△ 213,721	△ 11.0
受取利息	5	5	0	0.0
府補助金	1,080		1,080	皆増
他会計補助金	951,586	1,155,400	△ 203,814	△ 17.6
長期前受金戻入	783,588	794,594	△ 11,006	△ 1.4
雑収益	1,122	1,103	19	1.7
特別利益	2,733	11,823	△ 9,090	△ 76.9
引当金戻入益	2,733		2,733	皆増
その他特別利益	0	11,823	△ 11,823	△ 100.0
下水道事業費用 (B)	2,387,707	2,485,956	△ 98,249	△ 4.0
営業費用	2,047,801	2,095,010	△ 47,209	△ 2.3
管渠費	85,446	82,484	2,962	3.6
ポンプ場費	33,028	31,686	1,342	4.2
処理場費	325,638	325,661	△ 23	△ 0.0
浄化槽費	128,268	130,859	△ 2,591	△ 2.0
水洗化普及費	5,796	5,514	282	5.1
業務費	15,607	14,655	952	6.5
総係費	22,811	43,017	△ 20,206	△ 47.0
減価償却費	1,429,415	1,397,593	31,822	2.3
資産減耗費	1,792	63,541	△ 61,749	△ 97.2
その他営業費用	0	0	0	—
営業外費用	339,906	371,898	△ 31,992	△ 8.6
支払利息 (D)	332,290	351,728	△ 19,438	△ 5.5
雑支出	7,616	20,170	△ 12,554	△ 62.2
特別損失	0	19,048	△ 19,048	△ 100.0
その他特別損失	0	19,048	△ 19,048	△ 100.0
当年度純損益 (A)-(B)	△ 138,904	△ 20,156	△ 118,748	—
総収支比率 (A)/(B)	94.2	99.2	△ 5.0	
支払利息/営業収益 (D)/(C)	65.3	69.9	△ 4.6	

別表 15 下水道事業経営の安定度に関する指標

(単位：%)

年度 項目	令和3年度	令和2年度	令和元年度	備 考
総収支比率	94.2	99.2	—	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ <p>経営収支の均衡度を総収益対費用の関係で見る指標。高い数値の方が好ましい。この率が100%未満であれば、純損失を生じている。</p>
公共下水道	94.1	92.8	—	
類似団体全国平均値	—	114.6	—	
特定環境保全公共下水道	92.7	104.5	—	
類似団体全国平均値	—	104.3	—	
農業集落排水処理施設	98.1	110.1	—	
類似団体全国平均値	—	114.9	—	
漁業集落排水処理施設	94.1	123.2	—	
類似団体全国平均値	—	119.1	—	
浄化槽整備	94.5	92.1	—	$\frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$ <p>特別損益を除いた経常的な収支の関係を見る指標。高い数値の方が好ましい。100%を超える場合は単年度黒字を、100%未満は単年度赤字を表す。</p>
類似団体全国平均値	—	107.7	—	
経常収支比率	94.1	99.5	—	
公共下水道	94.0	92.6	—	
類似団体全国平均値	—	102.3	—	
特定環境保全公共下水道	92.4	105.2	—	
類似団体全国平均値	—	103.7	—	
農業集落排水処理施設	98.1	112.8	—	
類似団体全国平均値	—	96.1	—	
漁業集落排水処理施設	94.1	123.2	—	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事費収益}}{\text{営業費用} - \text{受託工事費}} \times 100$ <p>通常の営業活動に要する費用を、営業活動に必要なものとして徴収している給水収益等の営業収益で、どの程度賄っているかを示す指標。高い数値の方が好ましい。100%未満の場合は健全経営とはいえない。</p>
類似団体全国平均値	—	92.1	—	
浄化槽整備	94.5	90.2	—	
類似団体全国平均値	—	95.9	—	
営業収支比率	24.8	24.0	—	
公共下水道	30.6	23.6	—	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事費収益}}{\text{営業費用} - \text{受託工事費}} \times 100$ <p>通常の営業活動に要する費用を、営業活動に必要なものとして徴収している給水収益等の営業収益で、どの程度賄っているかを示す指標。高い数値の方が好ましい。100%未満の場合は健全経営とはいえない。</p>
特定環境保全公共下水道	22.4	22.3	—	
農業集落排水処理施設	30.9	31.9	—	
漁業集落排水処理施設	19.8	21.6	—	
浄化槽整備	21.5	21.0	—	

※ 5事業全てを実施している類似団体は無いため、各事業ごとに同じ区分の団体を掲載した。

別表 16

下水道事業資産

(単位：千円、%)

項目		年度		対前年比	
		令和3年度 (A)	令和2年度 (B)	金額(C) (A-B)	比率(C/B*100)
固定資産	土地	1,696,284	1,695,385	899	0.1
	建物	2,315,563	2,358,432	△ 42,869	△ 1.8
	構築物	32,134,849	31,842,578	292,271	0.9
	機械及び装置	4,130,922	4,414,951	△ 284,029	△ 6.4
	車両運搬具	170	341	△ 171	△ 50.1
	工具器具及び備品	5,894	1,929	3,965	205.5
	建設仮勘定	0	0	0	—
	小計	40,283,682	40,313,616	△ 29,934	△ 0.1
流動資産	現金預金	489,723	299,848	189,875	63.3
	未収金	159,080	114,340	44,740	39.1
	貸倒引当金	△ 2,806	△ 3,017	211	△ 7.0
	貯蔵品	2,889	2,422	467	19.3
	前払金	180,830	231,208	△ 50,378	△ 21.8
	その他流動資産	0	0	0	—
	小計	829,716	644,801	184,915	28.7
合計	41,113,398	40,958,417	154,981	0.4	

別表 17

下水道事業負債

(単位：千円、%)

項目		年度		対前年比	
		令和3年度 (A)	令和2年度 (B)	金額(C) (A-B)	比率(C/B*100)
固定負債	企業債	22,006,751	22,024,439	△ 17,688	△ 0.1
	引当金	0	0	0	—
	その他固定負債	0	0	0	—
	小計	22,006,751	22,024,439	△ 17,688	△ 0.1
流動負債	一時借入金	116,600	137,700	△ 21,100	△ 15.3
	企業債	1,514,488	1,466,089	48,399	3.3
	未払金	263,562	159,488	104,074	65.3
	前受金	64,216	93,374	△ 29,158	△ 31.2
	引当金	6,199	8,979	△ 2,780	△ 31.0
	その他流動負債	7,220	4,818	2,402	49.9
	小計	1,972,285	1,870,448	101,837	5.4
繰延収益	長期前受金	19,150,095	18,606,586	543,509	2.9
	収益化累計額	△ 1,543,253	△ 761,066	△ 782,187	102.8
	小計	17,606,842	17,845,520	△ 238,678	△ 1.3
合計	41,585,878	41,740,407	△ 154,529	△ 0.4	

別表18 下水道事業資本金

(単位：千円、%)

年度 項目		令和3年度 (A)	令和2年度 (B)	対前年比	
				金額(C)	(A-B) 比率(C/B*100)
自己資本金	自己資本金	1,243,693	795,279	448,414	56.4
借入資本金	企業債	—	—	—	—
合計 (イ)		1,243,693	795,279	448,414	56

別表19 下水道事業剰余金

(単位：千円、%)

年度 項目		令和3年度 (A)	令和2年度 (B)	対前年比	
				金額(C)	(A-B) 比率(C/B*100)
資本剰余金	再評価積立金	0	0	—	—
	受益者負担金	0	0	—	—
	補助金	687,811	687,811	0	0.0
	受贈財産評価額	265,246	265,246	0	0.0
	寄附金	0	0	—	—
	工事負担金	0	0	—	—
	小計	953,057	953,057	0	0.0
利益剰余金	減債積立金	0	0	—	—
	建設改良積立金	0	0	—	—
	当年度未処分利益剰余金	△ 2,669,230	△ 2,530,326	△ 138,904	5.5
	(うち当年度純利益)	(△ 138,904)	(△ 20,157)	(△ 118,747)	589.1
	小計	△ 2,669,230	△ 2,530,326	△ 138,904	5.5
合計 (ウ)		△ 1,716,173	△ 1,577,269	△ 138,904	8.8

資本合計 (イ)+(ウ)	△ 472,480	△ 781,990	309,510	△ 39.6
負債資本合計 (ア)+(イ)+(ウ)	41,113,398	40,958,417	154,981	0.4

別表20 下水道使用料未収金及び不納欠損額（税込）

令和4年3月31日現在

（単位：円、件）

	未 収 金				不 納 欠 損			
	令和3年度		令和2年度		令和3年度		令和2年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
令和3年度	12,280	48,326,322			0	0		
令和2年度	521	2,012,558	11,893	49,097,559	0	0	0	0
令和元年度	401	1,556,785	483	1,837,903	0	0	2	2,324
平成30年度	379	1,508,530	439	1,771,062	0	0	1	10,062
平成29年度	351	1,303,858	386	1,426,345	0	0	1	7,062
平成28年度	166	818,372	271	1,254,515	63	227,994	0	0
平成27年度	141	669,596	238	1,061,006	89	357,894	34	135,572
平成26年度	150	888,700	178	1,038,071	27	145,736	59	245,979
平成25年度	137	761,115	194	943,857	53	179,042	53	153,460
平成24年度	114	573,902	165	793,719	49	213,310	57	142,360
平成23年度	74	474,951	96	574,506	20	89,150	50	113,520
平成22年度	91	420,647	102	489,661	3	20,860	37	74,913
平成21年度	19	56,155	31	112,695	8	31,480	11	31,000
平成20年度	8	36,106	8	36,106	0	0	0	0
平成19年度	1	2,893	1	2,893	0	0	1	2,547
合 計	14,833	59,410,490	14,485	60,439,898	312	1,265,466	306	918,799

別表21 受益者分担金未収金及び不納欠損額（税込）

令和4年3月31日現在

（単位：円、件）

	未 収 金				不 納 欠 損			
	令和3年度		令和2年度		令和3年度		令和2年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
令和3年度	41	3,477,200			0	0		
令和2年度	15	362,000	32	3,193,000	0	0	0	0
令和元年度	6	148,000	10	252,000	0	0	0	0
平成30年度	4	104,000	4	104,000	0	0	0	0
平成29年度	4	104,000	8	196,000	0	0	0	0
平成28年度	1	17,469	5	105,469	0	0	1	22,000
平成27年度	0	0	0	0	0	0	1	22,000
平成26年度	1	90,000	1	90,000	0	0	0	0
平成25年度	1	90,000	1	90,000	0	0	0	0
平成24年度	1	28,788	1	28,788	0	0	0	0
平成23年度	1	65,000	1	65,000	0	0	1	26,000
平成22年度	1	22,000	1	22,000	0	0	4	104,000
平成21年度	4	88,000	8	169,100	0	0	2	51,993
平成20年度	1	22,000	3	95,704	1	51,804	0	0
平成19年度	5	104,000	5	104,000	0	0	0	0
平成18年度	28	616,000	28	616,000	0	0	0	0
平成17年度	25	515,400	25	533,100	0	0	0	0
平成16年度	6	90,200	8	107,500	0	0	0	0
合 計	145	5,944,057	141	5,771,661	1	51,804	9	225,993

京丹後市病院事業会計

1 事業の概況

事業の概要は、別表 22 のとおりである。

一般病床と療養病床を合わせた入院患者数は、弥栄病院が延 40,837 人（1 日平均 137.0 人）、久美浜病院が延 48,496 人（同 132.9 人）で、前年度に比べて弥栄病院が 10,159 人（同 2.7 人）の減少、久美浜病院が 2,115 人（同 5.8 人）の増加となった。

外来患者数は、弥栄病院が延 94,293 人（1 日平均 389.6 人）、久美浜病院が延 73,553 人（同 303.9 人）となり、前年度に比べて弥栄病院は 2,563 人（同 12.1 人）、久美浜病院は 4,207 人（同 18.5 人）の増加となった。

病床利用率は、弥栄病院は、前年度に比べて 3.6 ポイント減少し 66.6%に、久美浜病院は 4.9 ポイント増加し 79.6%の結果となった。

令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症の対応のため、入院患者の受け入れ体制に大きな影響があった。弥栄病院では、一般病床 150 床と療養病床 49 床の入院体制であったが、5 月 31 日からはコロナ患者受け入れのため、療養病床全てをコロナ患者受入病床（一般病床化）とした。そのうち、コロナ患者受入病床を 12 床、休床を 37 床としたため、実稼働病床は 162 床となった。久美浜病院では、一般病床のうち 1 床をコロナ疑似症患者受入病床、休床を 3 床としたため、実稼働病床は 107 床となった。

(1) 入院患者の状況

入院患者の状況は、別表 23、別表 26 及び別表 27 のとおりである。

一般病床においては、弥栄病院では患者数が外科等で減少したものの、内科、総合診療科で大きく増加し、延患者数は 39,039 人と、前年度に比べて 2,877 人の増加となった。また、久美浜病院では外科、歯科・歯科口腔外科で患者数が減少したものの、内科、整形外科等で増加し、延患者数は 31,420 人で、前年度に比べて 1,716 人の増加となった。

療養病床においては、弥栄病院では 5 月 31 日からコロナ患者受入病床に移行したため、延患者数が 1,798 人で前年度に比べて 13,036 人の減少、久美浜病院では 17,076 人と前年度に比べて 399 人の増加となった。

施設の利用状況を表す病床利用率は、別表 29 のとおりである。

弥栄病院の一般病床の利用率は 66.8%で、前年度に比べて 0.8 ポイント増加し、療養病床では 61.2%で 21.7 ポイント減少した。久美浜病院の一般病床の利用率は 80.5%で、前年度に比べて 6.5 ポイント減少し、療養病床では 78.0%と 1.8 ポイント増加した。

(2) 外来患者の状況

外来患者の状況は、別表 23 及び別表 28 のとおりである。

弥栄病院では、内科、小児科などで患者数が増加したが、整形外科、耳鼻咽喉科な

どで減少し、延患者数は 94,293 人と、前年度に比べ 2,563 人の増加となった。

久美浜病院では、小児科、歯科・歯科口腔外科などで患者数が増加したが、内科などで減少し、延患者数は 73,553 人と、前年度に比べ 4,207 人の増加となった。

なお、診療実日数は、弥栄病院、久美浜病院共に前年度よりも 1 日少ない 242 日であった。

(3) 訪問看護事業の状況

訪問看護事業の状況は、別表 24 のとおりである。

弥栄病院では、訪問実人数は 3,309 人で前年度に比べ 126 人の減少、訪問延人数は 13,425 人で前年度に比べ 766 人の減少となった。久美浜病院では、訪問実人数は 1,815 人で前年度に比べ 51 人の増加、訪問延人数は 8,924 人で前年度に比べ 419 人の増加となった。

高齢化や核家族化が進行する中、訪問患者数は年々増加している。前年度に引き続いて新型コロナウイルスの影響も考えられる。在宅医療の充実や生活の安定のために大切な事業であるので、今後も地域の実状に即した運営を望むものである。

(4) 通所リハビリテーション事業の状況

通所リハビリテーション事業の状況は、別表 25 のとおりである。

平成 19 年度から久美浜病院で実施されている事業であり、通所実人数は 462 人で前年度と増減なし、通所延人数は 3,876 人と 117 人の減少となった。

2 予算執行状況（税込）

(1) 収益的収入及び支出

収益的収入の予算執行状況は、次のとおりである。

（決算書 P4, P5 及び別表 32 参照）

（単位：千円、％）

区 分	予算額	決算額	増減額	収入率
弥栄病院事業収益	4,500,238	4,552,664	52,426	101.2
医業収益	3,458,931	3,620,202	161,271	104.7
医業外収益	904,554	803,201	△ 101,353	88.8
訪問看護事業収益	118,471	124,938	6,467	105.5
特別利益	18,282	4,323	△ 13,959	23.6
久美浜病院事業収益	2,999,677	2,969,592	△ 30,085	99.0
医業収益	2,393,472	2,459,738	66,266	102.8
医業外収益	416,658	378,724	△ 37,934	90.9
訪問看護事業収益	81,740	86,313	4,573	105.6
通所リハビリテーション事業収益	41,700	41,817	117	100.3

特別利益	66,107	3,000	△ 63,107	4.5
合 計	7,499,915	7,522,256	22,341	100.3

収益的収入である病院事業収益は、予算額 74 億 9,991 万 5 千円に対して決算額 75 億 2,225 万 6 千円で、収入率は 100.3%となっている。

弥栄病院事業収益は、前年度に比べて 2 億 2,665 万 4 千円増加しており、その内訳は医業外収益が 3 億 1,740 万円の増加、特別収益が 8,544 万 7 千円の減少などである。久美浜病院事業収益は、前年度に比べて 9,393 万 4 千円増加しており、その内訳は医業収益が 2 億 3,959 万円の増加、医業外収益が 3,077 万円、特別利益が 1 億 2,813 万 2 千円の減少などである。

収益的支出の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P6, P7 及び別表 32 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
弥栄病院事業費用	4,782,136	4,549,644	0	232,492	95.1
医業費用	4,581,409	4,367,616	0	213,793	95.3
医業外費用	83,335	81,538	0	1,797	97.8
訪問看護事業費用	107,682	98,390	0	9,292	91.4
特別損失	2,100	2,100	0	0	100.0
予備費	7,610	0	0	7,610	0.0
久美浜病院事業費用	3,103,331	2,961,286	0	142,045	95.4
医業費用	2,938,607	2,819,378	0	119,229	95.9
医業外費用	39,318	38,390	0	928	97.6
訪問看護事業費用	63,187	61,765	0	1,422	97.7
通所リハビリテーション事業費用	41,442	30,976	0	10,466	74.7
特別損失	10,777	10,777	0	0	100.0
予備費	10,000	0	0	10,000	0.0
合 計	7,885,467	7,510,930	0	374,537	95.3

収益的支出である病院事業費用は、予算額 78 億 8,846 万 7 千円に対して決算額 75 億 1,093 万円で、執行率は 95.3%となっており、不用額は総額 3 億 7,453 万 7 千円となっている。

弥栄病院事業費用は、前年度に比べて 385 万 7 千円減少しており、その内訳は、医業費用が 6,673 万 6 千円の増加、特別損失が 6,450 万 2 千円の減少などである。久美浜病院事業費用は、前年度に比べて 1 億 762 万 2 千円増加しており、主に医業費用が 1 億 5,953 万 5 千円増加していることによるものである。

(2) 資本的収入及び支出

資本的収入の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P8, P9 及び別表 33 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	増減額	収入率
弥栄病院資本的収入	293,515	285,399	△ 8,116	97.2
企業債	115,800	107,700	△ 8,100	93.0
他会計出資金	155,608	155,608	0	100.0
他会計負担金	13,564	13,563	△ 1	100.0
補助金	7,056	7,041	△ 15	99.8
長期貸付金返還金	1,487	1,487	0	100.0
寄附金	0	0	0	—
久美浜病院資本的収入	266,744	266,740	△ 4	100.0
企業債	66,500	66,500	0	100.0
他会計出資金	169,816	169,816	0	100.0
他会計負担金	23,372	23,371	△ 1	100.0
補助金	5,569	5,565	△ 4	99.9
長期貸付金返還金	1,487	1,488	1	100.1
合 計	560,259	552,139	△ 8,120	98.6

資本的収入は、予算額 5 億 6,025 万 9 千円に対して決算額 5 億 5,213 万 9 千円で、収入率は 98.6%となっている。

資本的支出の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P10, P11 及び別表 33 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
弥栄病院資本的支出	421,123	399,732	14,382	7,009	94.9
建設改良費	155,646	137,585	14,382	3,679	88.4
企業債償還金	256,569	256,567	0	2	99.9
長期貸付金	5,580	5,580	0	0	100.0
予備費	3,328	0	0	3,328	0.0
久美浜病院資本的支出	400,867	382,256	0	18,611	95.4
建設改良費	101,000	92,390	0	8,610	91.5
企業債償還金	284,287	284,286	0	1	99.9
長期貸付金	5,580	5,580	0	0	100.0
予備費	10,000	0	0	10,000	0.0
合 計	821,990	781,988	14,382	25,620	95.1

資本的支出は、予算額 8 億 2,199 万円に対して決算額 7 億 8,198 万 8 千円で、執行率は 95.1%となっている。

主な施設設備の状況は、次のとおりである。

(決算書 P32-33, P46-47 参照)

(単位：千円)

区 分		内 容	金 額
建設改良 (500 万以上)		該当なし	
資産購入 (1,000 万以上)	弥栄病院	パルス方式キセノン紫外線照射ロボット	17,356
		乳房撮影装置(マンモグラフィ)	19,305
		多用途透析監視装置	12,485
	久美浜病院	手術用顕微鏡	19,250

改良工事に関しては 322 万 1 千円 (弥栄病院のみ) 支出し、器械及び備品整備については 2 億 1,056 万 2 千円 (弥栄病院 1 億 2,077 万 7 千円、久美浜病院 8,978 万 5 千円) を支出した。医師の確保など診療の充実を目指した投資に加え、新型コロナウイルス感染症防止対策のための施設整備費等を行っている。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額 2 億 2,984 万 9 千円は、損益勘定留保資金等で補てんしている。(別表 33 参照)

3 経営成績 (税抜)

損益計算書による経営成績は、次のとおりである。

(決算書 P12, P36, P50 及び 別表 34 参照)

(単位：千円、%)

区 分	令和 3 年度			令和 2 年度		
	計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院
総収益 (A)	7,490,157	4,532,752	2,957,405	7,175,995	4,309,554	2,866,441
総費用 (B)	7,473,453	4,526,806	2,946,647	7,382,020	4,536,042	2,845,978
純損益	16,704	5,946	10,758	△ 206,025	△ 226,488	20,463
比率 (A)/(B)	100.2	100.1	100.4	97.2	95.0	100.7

総収益 74 億 9,015 万 7 千円に対して総費用 74 億 7,345 万 3 千円で、差し引き 1,670 万 4 千円の純利益となっている。この結果、前年度繰越欠損金 33 億 9,736 万 4 千円を加え、当年度未処理欠損金 (累積欠損金) は、33 億 8,066 万円となっている。

病院別の状況については、弥栄病院の総収益は 45 億 3,275 万 2 千円、総費用は 45 億 2,680 万 6 千円で、差し引き 594 万 6 千円の純利益となり、当年度未処理欠損金は、18 億 4,808 万 7 千円となっている。医業収益は 36 億 129 万 8 千円で、前年度に

比べて135万4千円(0.04%)減少、医業費用は42億823万7千円と、前年度に比べて6,117万4千円(1.5%)増加し、医業損失は6億693万9千円で前年度と比べ6,252万8千円の増加となり、悪化している。

次に、久美浜病院の総収益は29億5,740万5千円、総費用は29億4,664万7千円で、差し引き1,075万8千円の純利益となり、当年度未処理欠損金は15億3,257万3千円となっている。医業収益は24億4,959万円で、前年度に比べて2億3,678万6千円(10.7%)の増加となった。医業費用も27億3,437万2千円と、前年度に比べて1億4,673万7千円(5.7%)増加しており、医業損失は2億8,478万2千円で前年度と比べ9,004万9千円の減少となり、好転している。

また、総収支比率は、別表34のとおり100.2%と5年ぶりに純利益となった。

医業における経営状態を示す比率は、次のとおりである。

(別表31参照)

(単位：%)

区 分	令和3年度			令和2年度		
	計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院
経常収支比率	100.3	100.1	100.6	96.0	94.4	98.5
医業収益対医業費用比率	88.4	86.5	91.2	87.6	87.8	87.1

経常収支比率は、収益と費用を対比して経営活動の成果を示すものであり、比率が大きいほど良好であるが、前年度に比べて4.3ポイントの増加(弥栄病院5.7ポイントの増加、久美浜病院2.1ポイントの増加)となった。

医業収益対医業費用比率は、医業費用に対する医業収益の比率を示すものであり、100%未満は医業収支が赤字であることになる。前年度に比べて0.8ポイントの増加(弥栄病院1.3ポイントの減少、久美浜病院4.1ポイントの増加)となり、弥栄病院の経営状態は悪化しているのに対し、久美浜病院の経営状態は好転している結果となった。

4 財政状態(税抜)

貸借対照表による財政状態は、次のとおりである。

(別表33-38参照)

(単位：千円)

区 分	令和3年度			令和2年度			
	計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院	
資 産	固定資産	7,817,752	6,047,290	1,770,462	8,205,933	6,386,712	1,819,221
	流動資産	1,400,700	882,970	517,730	1,311,933	804,916	507,017
	計	9,218,452	6,930,260	2,288,192	9,517,866	7,191,628	2,326,238

負債	固定負債	6,248,078	5,443,512	804,566	6,610,711	5,615,922	994,789
	流動負債	1,932,890	969,947	962,943	2,185,742	1,204,751	980,991
	繰延収益	585,986	360,936	225,050	632,977	381,207	251,770
	計	8,766,954	6,774,395	1,992,559	9,429,430	7,201,880	2,227,550
資本	資本金	1,449,347	884,100	565,247	1,123,922	728,491	395,431
	剰余金	△ 997,849	△ 728,235	△ 269,614	△ 1,035,486	△ 738,743	△ 296,743
	計	451,498	155,865	295,633	88,436	△ 10,252	98,688
負債資本合計		9,218,452	6,930,260	2,288,192	9,517,866	7,191,628	2,326,238

資産の総額は92億1,845万2千円で、前年度に比べて2億9,941万4千円(3.1%)減少している。

固定資産は、総額では3億8,818万1千円の減少で、主な内訳として、建物が2億8,984万7千円、構築物が1,791万9千円、器械及び備品が5,345万8千円の減少であった。

流動資産である個人が窓口で支払うべき診療費の未収金の状況は、次のとおりである。

令和4年3月31日現在

(単位：千円)

区分	令和3年度			令和2年度		
	計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院
未収金	56,123	36,251	19,872	53,718	34,962	18,756
不納欠損	335	335	0	509	509	0

未収金の総額は5,612万3千円で、前年度に比べて240万5千円増加(弥栄病院は128万9千円の増加、久美浜病院は111万6千円の増加)している。

負債の総額は87億6,695万4千円で、前年度に比べて6億6,247万6千円(7.0%)減少している。固定負債の減少は、企業債3億5,334万3千円、リース債務929万円の減少によるものであり、流動負債の減少は、企業債が2,539万1千円、未払金が1,580万8千円増加したのに対し、一時借入金2億9,000万円減少したことなどによるものである。

資本の総額は4億5,149万8千円で、前年度に比べて3億6,306万2千円(410.5%)増加している。

企業債の状況は次のとおりである。

(決算書 P37, P51, P68-69, P78-79 参照)

(単位：千円)

区 分	令和 2 年度 末残高	令和 3 年度		令和 3 年度 末残高	令和 3 年度 支払利息
		発行額	償還額		
弥栄病院	5,857,851	119,300	256,567	5,720,584	34,760
久美浜病院	1,279,075	93,600	284,286	1,088,389	20,138
合 計	7,136,926	212,900	540,853	6,808,973	54,898

企業債残高は、68 億 897 万 3 千円で、前年度に比べて 3 億 2,795 万 3 千円 (4.6%) 減少している。医療器械購入等のため、両病院で 2 億 1,290 万円を新たに借り入れているが、償還額がそれを上回ったことによるものである。

病院別の状況については、弥栄病院では、企業債残高は 57 億 2,058 万 4 千円で、前年度に比べて 1 億 3,726 万 7 千円 (2.3%) 減少している。企業債利息は 3,476 万円で、医業収益 36 億 129 万 8 千円に占める割合は 1.0% (前年度 1.0%) と横ばいである。

次に、久美浜病院では、企業債残高は 10 億 8,838 万 9 千円で、前年度に比べて 1 億 9,068 万 6 千円 (14.9%) 減少している。企業債利息は 2,013 万 8 千円で、医業収益 24 億 4,959 万円に占める割合は 0.9% (前年度 1.2%) と減少している。

5 むすび

令和 3 年度は、前年度に引き続いて新型コロナウイルス感染症の影響を非常に大きく受けた年であった。弥栄病院では発熱外来に加えて、5 月末に療養型病棟フロア全体をコロナ専用病床に転換し、それと同時に、療養型病棟に入院されていた患者を久美浜病院等へ転院させるなど、コロナ患者の入院医療提供体制を整えた。

病院の医師体制について、弥栄病院では、6 月に新たに総合診療科医師 1 名を迎えることができ、医療体制の拡充を図ることができた。久美浜病院では、内科医師が昨年度からさらに 1 名減員となり 4 人体制となったが、眼科医師 1 名を採用、また外科医師が 1 名増員の体制でのスタートとなった。両病院とも、医師体制が充実しているとは言えない中、医師不足の解消に向けて精力的に招へい活動をするなどの努力もあって、関係機関からの医師の派遣を受けるなどして、患者需要に应运っていた。しかしながら、依然として医師の獲得につながりにくい状況にあり、引き続き多方面からの招へい活動に尽力されたい。

経常収支について、弥栄病院、久美浜病院共に医師体制が不十分な状況の中、収益増加につながる取組を工夫し実施し、前年度まで 5 年連続の赤字決算であったが、令和 3 年度は黒字決算となった。

収益面を見ると、弥栄病院では入院収益、外来収益などの減少が大きいのが、その反面、コロナ関連の補助金が交付されるなど収益は伸びた。久美浜病院では入院収益、

外来収益など全体的に収益が伸びた結果となった。

費用面を見ると、両病院とも給与費、経費などが増加した。新型コロナウイルス感染症の影響で受診控え等がある中、一定の収益を確保するための取組を尽力いただいているが、それと同時に経費節減の努力も必要である。

そのような中、時間外勤務や物品購入の面で、全体的なマネジメントの徹底が必要な点が見受けられた。平成30年度から4年連続で資金不足比率はマイナスになっており、健全な経営状態であるとは言えない状況である。収支の改善には、安定的に入院収入を確保することが肝要であり、診療科ごとの患者数、診療収入などに注目し、患者のニーズに応えられるよう常勤医師の拡充や各部門の連携を図ることによって、医療体制を強化する必要がある。

個人が窓口で支払うべき診療費の未収金については、前年度に比べ増加している。電話及び文書による督促や訪問徴収に加え、弁護士法人への回収業務の委託やクレジットカードによる支払を導入しているが、依然、多額の未収金があることから、窓口での支払時に未収金額があることをわかりやすく伝える工夫をするなど、先進事例も参考にしながら徴収に努められたい。負担の公平性、経営の健全化を推し進める観点から、診療費の滞納整理については、今後も関係部局等と連携して積極的な対応を求めるものである。また、未収金の増加を防ぐために、特に現年度の未収金回収を早期に着手するなど、債権の適正な管理と徴収に努められたい。

市立診療所も含めた市全体の医療体制については、将来にわたって地域医療、救急医療、産科・小児科医療、在宅医療、リハビリ等、幅広く必要な医療を提供し、公的医療施設に求められる役割が十分に果たせるよう、経営改善への具体的な方策をもって持続可能な運営に努める必要がある。病院施設及び設備についても長期的な展望に立って計画的に整備し、患者サービスと医療の質の向上のため、有効に活用されたい。また、合併前からの課題である病院用地の借地問題について、その借地は病院施設の地上権が設定されているものの、市有地にすべきであり、解決するよう地権者との粘り強い交渉に努められたい。

医療を取り巻く環境の変化や多様化する患者のニーズを的確に把握し、今後も、全職員が経営感覚を常に念頭に置きながら、各病院の特色を生かして医療サービスの向上と経費削減に取り組まれたい。そして、市民に信頼され、地域に密着した良質で必要とされる医療等のサービスを提供し続けるためにも、中長期的な目線で安定的な経営基盤が確立されるよう強く望むものである。

病院事業会計 決算審査資料

別表22	病院事業の概要	56
別表23	入院患者・外来患者の状況	57
別表24	訪問看護の状況	57
別表25	通所リハビリテーションの状況	57
別表26	診療科目別入院患者の状況（一般病床）	58
別表27	診療科目別入院患者の状況（療養病床）	59
別表28	診療科目別外来患者の状況	60
別表29	病床利用率	61
別表30	患者1人1日当たり診療収入	61
別表31	収支比率	61
別表32	収益的収支（税込）	62
別表33	資本的収支（税込）	63
別表34	損益計算書（税抜）	64
別表35	資産	66
別表36	負債	66
別表37	資本金	67
別表38	剰余金	67

(注) 表中の数値は、基本的に表示数値未満を四捨五入(収入率及び執行率は、小数点第2位を切捨て)しているため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

別表 22

病院事業の概要

項目		単位	弥栄病院			久美浜病院				
			令和3年度	令和2年度	対前年比 (R3-R2)	令和3年度	令和2年度	対前年比 (R3-R2)		
医	病床数 ※1	床	199	199	0	170	170	0		
		年間延	床	61,350	72,635	△ 11,285	60,955	62,050	△ 1,095	
	患者 数	入 院	年間延	人	40,837	50,996	△ 10,159	48,496	46,381	2,115
			1日平均	人	137.0	139.7	△ 2.7	132.9	127.1	5.8
		外 来	年間延	人	94,293	91,730	2,563	73,553	69,346	4,207
			1日平均	人	389.6	377.5	12.1	303.9	285.4	18.5
	病床利用率		%	66.6	70.2	△ 3.6	79.6	74.7	4.9	
	外来診療実日数		日	242	243	△ 1	242	243	△ 1	
	医業費用(税抜)		千円	4,208,237	4,147,063	61,174	2,734,372	2,587,635	146,737	
	医業収益(税抜)		千円	3,601,298	3,602,652	△ 1,354	2,449,590	2,212,804	236,786	
業	入院 外来 収益 (税抜)	入 院	総額	千円	1,697,641	1,739,315	△ 41,674	1,489,502	1,337,465	152,037
		1人1日 平均	円	41,571	34,107	7,464	30,714	28,836	1,878	
	外 来	総額	千円	1,452,914	1,480,088	△ 27,174	670,714	626,862	43,852	
		1人1日 平均	円	15,409	16,135	△ 726	9,119	9,040	79	
訪問看護 事業(事業 日数は 外来診療 実日数に 同じ)	訪問実人数		人	3,309	3,435	△ 126	1,815	1,764	51	
	訪問延人数		人	13,425	14,191	△ 766	8,924	8,505	419	
	1日平均 訪問患者数		人	55.5	58.4	△ 2.9	36.9	35.0	1.9	
通所リハ ビリテー ション事 業(事業 日数は 外来診療 実日数に 同じ)	通所実人数		人	/	/	/	462	462	0	
	通所延人数		人	/	/	/	3,876	3,993	△ 117	
	1日平均 通所患者数		人	/	/	/	16.0	16.4	△ 0.4	
職員数 (年度末 現在)	医師		人	16	15	1	23	17	6	
	看護師 ※2		人	170	172	△ 2	160	158	2	
	その他		人	108	97	11	99	94	5	
	計		人	294	284	10	282	269	13	

※1 弥栄病院は、5月30日まで一般病床150床、療養病床49床。5月31日から療養病床全てをコロナ患者受入病床(一般病床)に転換、一般病床199床(うち、コロナ患者受入病床12床、休床37床。実稼働病床162床)、療養病床0床。
久美浜病院は、一般病床110床(うち、コロナ疑似症患者受入病床1床、休床3床。実稼働病床107床、療養病床60床。

※2 職員数の看護師には助産師・准看護師・介護福祉士・看護助手・介護助手を含む

別表23 入院患者・外来患者の状況

(単位：人、%)

区 分		年 度	令和3年度		令和2年度		対前年比 (R3/R2)	
			延患者数 (A)	1日平均 患者数	延患者数 (B)	1日平均 患者数	増減 (C) = (A-B)	比率 (C)/(B) ×100
入 院	一般病床 (309床) 合計		70,459	193.1	65,866	180.5	4,593	7.0
	弥栄病院 (199床) ※1		39,039	107.0	36,162	99.1	2,877	8.0
	久美浜病院 (110床) ※2		31,420	86.1	29,704	81.4	1,716	5.8
	療養病床 (60床) 合計		18,874	76.8	31,511	86.3	△ 12,637	△ 40.1
	弥栄病院 (0床) ※1		1,798	30.0	14,834	40.6	△ 13,036	△ 87.9
	久美浜病院 (60床)		17,076	46.8	16,677	45.7	399	2.4
外 来	合計		167,846	693.5	161,076	662.9	6,770	4.2
	弥栄病院 診療実日数 (242日)		94,293	389.6	91,730	377.5	2,563	2.8
	久美浜病院 診療実日数 (242日)		73,553	303.9	69,346	285.4	4,207	6.1

※1 弥栄病院の病床数は、4月1日から5月30日まで一般病床150床、療養病床49床。5月31日から一般病床162床（一般病床199床中、休床37床）。

※2 久美浜病院の病床数は、一般病床107床（一般病床110床中、休床3床）。

別表24 訪問看護の状況

(単位：人)

区 分		令和3年度			令和2年度			対前年比	
		訪問 実人数 (A)	訪問 延人数 (B)	1日平均 訪問 患者数	訪問 実人数 (C)	訪問 延人数 (D)	1日平均 訪問 患者数	増減 (A)-(C)	増減 (B)-(D)
合計		5,124	22,349	92.4	5,199	22,696	93.4	△ 75	△ 347
弥栄病院		3,309	13,425	55.5	3,435	14,191	58.4	△ 126	△ 766
久美浜病院		1,815	8,924	36.9	1,764	8,505	35.0	51	419

別表25 通所リハビリテーションの状況

(単位：人、%)

区 分		令和3年度			令和2年度			対前年比	
		通所 実人数 (A)	通所 延人数 (B)	1日平均 通所 患者数	通所 実人数 (C)	通所 延人数 (D)	1日平均 通所 患者数	増減 (A)-(C)	増減 (B)-(D)
合計		462	3,876	16.0	462	3,993	16.4	0	△ 117
弥栄病院									
久美浜病院		462	3,876	16.0	462	3,993	16.4	0	△ 117

別表 26

診療科目別入院患者の状況(一般病床)

診療科	年 度	令和3年度			令和2年度			対前年比 (R3-R2)	
		延患者数 人	1日平均 患者数 人	構成比率 %	延患者数 人	1日平均 患者数 人	構成比率 %	延患者数 人	1日平均 患者数 人
弥栄病院									
199 床 ※1	内 科	19,168	52.5	49.1	12,580	34.5	34.8	6,588	18.0
	外 科	2,119	5.8	5.4	5,503	15.1	15.2	△ 3,384	△ 9.3
	整形外科	9,165	25.1	23.5	9,286	25.4	25.7	△ 121	△ 0.3
	産婦人科	1,833	5.0	4.7	2,523	6.9	7.0	△ 690	△ 1.9
	小児科	514	1.4	1.3	607	1.7	1.7	△ 93	△ 0.3
	耳鼻咽喉科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	眼 科	1,539	4.2	3.9	1,638	4.5	4.5	△ 99	△ 0.3
	泌尿器科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	人工透析	3,324	9.2	8.6	4,025	11.0	11.1	△ 701	△ 1.8
	リハビリテーション科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	皮膚科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	総合診療科	1,377	3.8	3.5	0	0.0	0.0	1,377	3.8
	精神科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
小 計	39,039	107.0	100.0	36,162	99.1	100.0	2,877	7.9	
久美浜病院									
110 床 ※2	内 科	16,854	46.3	53.7	15,871	43.5	53.4	983	2.8
	外 科	4,210	11.5	13.4	4,536	12.4	15.3	△ 326	△ 0.9
	整形外科	4,981	13.6	15.9	3,842	10.5	12.9	1,139	3.1
	小児科	1,103	3.0	3.5	992	2.7	3.3	111	0.3
	皮膚科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	眼 科	325	0.9	1.0	131	0.4	0.5	194	0.5
	耳鼻咽喉科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	泌尿器科	887	2.4	2.8	948	2.6	3.2	△ 61	△ 0.2
	歯科・歯科 口腔外科	3,060	8.4	9.7	3,384	9.3	11.4	△ 324	△ 0.9
	心療内科・ 精 神 科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	小 計	31,420	86.1	100.0	29,704	81.4	100.0	1,716	4.7
合 計	70,459	193.1		65,866	180.5		4,593	12.6	

※1 弥栄病院の病床数は、4月1日から5月30日まで一般病床150床、療養病床49床。5月31日から一般病床162床（一般病床199床中、休床37床）。

※2 久美浜病院の病床数は、一般病床107床（一般病床110床中、休床3床）。

別表 27

診療科目別入院患者の状況（療養病床）

診療科	年度	令和3年度			令和2年度			対前年比 (R3-R2)	
		延患者数 人	1日平均 患者数 人	構成比率 %	延患者数 人	1日平均 患者数 人	構成比率 %	延患者数 人	1日平均 患者数 人
0 床※	弥栄病院								
	内科	1,798	30.0	100.0	14,834	40.6	100.0	△ 13,036	△ 10.6
	外科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	整形外科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	産婦人科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	小児科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	耳鼻咽喉科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	眼科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	泌尿器科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	人工透析	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	リハビリテーション科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	皮膚科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	総合診療科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	精神科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
小計	1,798	30.0	100.0	14,834	40.6	100.0	△ 13,036	△ 10.6	
60 床	久美浜病院								
	内科	11,925	32.7	69.8	12,820	35.1	76.9	△ 895	△ 2.4
	外科	3,337	9.2	19.6	1,957	5.4	11.7	1,380	3.8
	整形外科	526	1.4	3.1	195	0.5	1.2	331	0.9
	小児科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	皮膚科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	眼科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	耳鼻咽喉科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	泌尿器科	1,288	3.5	7.5	1,705	4.7	10.2	△ 417	△ 1.2
	歯科・歯科 口腔外科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	心療内科・ 精神科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	小計	17,076	46.8	100.0	16,677	45.7	100.0	399	1.1
合計	18,874	76.8		31,511	86.3		△ 12,637	△ 9.5	

※弥栄病院の病床数は、4月1日から5月30日まで一般病床150床、療養病床49床。5月31日から療養病床全てをコロナ患者受入病床（一般病床）に転換。

別表28

診療科目別外来患者の状況

診療科		令和3年度			令和2年度			対前年比 (R3-R2)	
		延患者数 人	1日平均 患者数 人	構成比率 %	延患者数 人	1日平均 患者数 人	構成比率 %	延患者数 人	1日平均 患者数 人
弥 栄 病 院	内科	24,564	101.5	26.1	23,135	95.2	25.2	1,429	6.3
	外科	1,737	7.2	1.8	1,723	7.1	1.9	14	0.1
	整形外科	19,482	80.5	20.7	19,839	81.6	21.6	△ 357	△ 1.1
	産婦人科	7,952	32.9	8.4	7,982	32.8	8.7	△ 30	0.1
	小児科	3,606	14.9	3.8	2,576	10.6	2.8	1,030	4.3
	耳鼻咽喉科	1,661	6.8	1.8	1,929	7.9	2.1	△ 268	△ 1.1
	眼科	14,531	60.0	15.4	14,502	59.7	15.8	29	0.3
	泌尿器科	1,673	6.9	1.8	1,561	6.4	1.7	112	0.5
	人工透析	8,951	37.0	9.5	8,751	36.0	9.6	200	1.0
	リハビリテーション科	797	3.3	0.8	681	2.8	0.7	116	0.5
	皮膚科	2,421	10.0	2.6	2,512	10.3	2.8	△ 91	△ 0.3
	総合診療科	2,660	11.0	2.8	2,411	9.9	2.6	249	1.1
	精神科	4,258	17.6	4.5	4,128	17.0	4.5	130	0.6
	小計	94,293	389.6	100.0	91,730	377.5	100.0	2,563	12.1
久 美 浜 病 院	内科	24,937	103.0	33.9	26,011	107.0	37.5	△ 1,074	△ 4.0
	外科	5,457	22.5	7.4	5,103	21.0	7.4	354	1.5
	整形外科	5,970	24.7	8.1	5,076	20.9	7.3	894	3.8
	小児科	9,001	37.2	12.2	6,448	26.5	9.3	2,553	10.7
	皮膚科	1,424	5.9	2.0	1,531	6.3	2.2	△ 107	△ 0.4
	眼科	3,538	14.6	4.8	3,754	15.4	5.4	△ 216	△ 0.8
	耳鼻咽喉科	1,352	5.6	1.9	1,437	5.9	2.1	△ 85	△ 0.3
	泌尿器科	3,596	14.8	4.9	3,778	15.5	5.4	△ 182	△ 0.7
	歯科・歯科 口腔外科	17,900	74.0	24.3	15,875	65.3	22.9	2,025	8.7
	心療内科・ 精神科	378	1.6	0.5	333	1.4	0.5	45	0.2
	小計	73,553	303.9	100.0	69,346	285.4	100.0	4,207	18.5
合計	167,846	693.5		161,076	662.9		6,770	30.6	

別表29 病 床 利 用 率

(単位：%)

区 分	算 出 方 法	年 度		令和3年度	令和2年度	令和元年度	対前年比 (R3-R2)
		病 院					
一般病床 ※	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	合 計		72.3	69.4	74.0	2.9
		弥栄病院		66.8	66.0	64.1	0.8
		久美浜病院		80.5	74.0	87.5	6.5
療養病床 ※	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	合 計		76.0	79.2	84.7	△ 3.2
		弥栄病院		61.2	82.9	83.7	△ 21.7
		久美浜病院		78.0	76.2	85.5	1.8

※ 弥栄病院の病床数は、4月1日から5月30日まで一般病床150床、療養病床49床。5月31日から一般病床162床（一般病床199床中、休床37床）。久美浜病院の病床数は、一般病床107床（一般病床110床中、休床3床）。

別表30 患 者 1 人 1 日 当 たり 診 療 収 入

(単位：円)

区 分	算 出 方 法	年 度		令和3年度	令和2年度	令和元年度	対前年比 (R3-R2)
		病 院					
入院診療収入 (一般病床)	$\frac{\text{入 院 収 益}}{\text{年延入院患者数}}$	合 計		40,772	37,821	36,221	2,951
		弥栄病院		42,571	39,965	39,542	2,606
		久美浜病院		38,538	35,211	32,907	3,327
入院診療収入 (療養病床)	$\frac{\text{入 院 収 益}}{\text{年延入院患者数}}$	合 計		16,656	18,586	18,713	△ 1,930
		弥栄病院		19,863	19,827	19,032	36
		久美浜病院		16,318	17,482	18,458	△ 1,164
外来診療収入	$\frac{\text{外 来 収 益}}{\text{年延外来患者数}}$	合 計		12,652	13,080	12,331	△ 428
		弥栄病院		15,409	16,135	15,280	△ 726
		久美浜病院		9,119	9,040	8,637	79
訪問看護収入	$\frac{\text{訪問看護事業収益}}{\text{年延訪問看護患者数}}$	合 計		9,452	9,280	9,169	172
		弥栄病院		9,306	9,333	9,429	△ 27
		久美浜病院		9,672	9,193	8,719	479
通所リハビリ収入	$\frac{\text{通所リハビリ事業収益}}{\text{年延通所患者数}}$	合 計		10,789	9,189	9,828	1,600
		弥栄病院		/	/	/	/
		久美浜病院		10,789	9,189	9,828	1,600

別表31 病 院 事 業 収 支 比 率

(単位：%)

区 分	算 出 方 法	年 度		令和3年度	令和2年度	令和元年度	対前年比 (R3-R2)
		病 院					
経常収支比率	$\frac{\text{医業収益+医業外収益+訪問看護事業収益+通所リハビリ事業収益}}{\text{医業費用+医業外費用+訪問看護事業費用+通所リハビリ事業費用}} \times 100$	合 計		100.3	96.0	95.1	4.3
		弥栄病院		100.1	94.4	92.0	5.7
		久美浜病院		100.6	98.5	100.2	2.1
医業収益対 医業費用比率	$\frac{\text{医業収益+訪問看護事業収益+通所リハビリ事業収益}}{\text{医業費用+訪問看護事業費用+通所リハビリ事業費用}} \times 100$	合 計		88.4	87.6	89.2	0.8
		弥栄病院		86.5	87.8	85.9	△ 1.3
		久美浜病院		91.2	87.1	94.5	4.1

別表 32

病院事業収益の収支（税込）

（単位：千円）

区 分		令和3年度			令和2年度		
		計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院
収益的収入	医 業 収 益	6,079,940	3,620,202	2,459,738	5,838,149	3,618,001	2,220,148
	医 業 外 収 益	1,181,925	803,201	378,724	895,295	485,801	409,494
	訪問看護事業収益	211,251	124,938	86,313	210,629	132,438	78,191
	通所リハビリテーション事業収益	41,817		41,817	36,693		36,693
	特 別 利 益	7,323	4,323	3,000	220,902	89,770	131,132
	合 計	7,522,256	4,552,664	2,969,592	7,201,668	4,326,010	2,875,658
収益的支出	医 業 費 用	7,186,994	4,367,616	2,819,378	6,960,723	4,300,880	2,659,843
	医 業 外 費 用	119,928	81,538	38,390	121,766	80,218	41,548
	訪問看護事業費用	160,155	98,390	61,765	156,467	105,801	50,666
	通所リハビリテーション事業費用	30,976		30,976	33,207		33,207
	特 別 損 失	12,877	2,100	10,777	135,002	66,602	68,400
	予 備 費	0	0	0	0	0	0
	合 計	7,510,930	4,549,644	2,961,286	7,407,165	4,553,501	2,853,664

別表 33

病院事業資本の収支（税込）

（単位：千円）

区 分		令和3年度			令和2年度			
		計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院	
資 本 的 収 入	企 業 債	174,200	107,700	66,500	106,900	75,900	31,000	
	他 会 計 出 資 金	325,424	155,608	169,816	106,900	75,900	31,000	
	他 会 計 負 担 金	36,934	13,563	23,371	64,525	28,746	35,779	
	補 助 金	12,606	7,041	5,565	91,391	59,073	32,318	
	長期貸付金返還金	2,975	1,487	1,488	2,625	1,387	1,238	
	寄 附 金	0	0	0	100	100	0	
	小 計	552,139	285,399	266,740	372,441	241,106	131,335	
	補 填 財 源	消費税及び地方 消費税資本の 収 支 調 整 額	0			0	0	0
		繰越工事資金	0			0	0	0
		損 益 勘 定 留 保 資 金 等	229,849	114,332	115,517	227,198	111,772	115,426
利 益 剰 余 金		0			0	0	0	
小 計		229,849	114,332	115,517	227,198	111,772	115,426	
合 計	781,988	399,731	382,257	599,639	352,878	246,761		
資 本 的 支 出	建 設 改 良 費	229,975	137,585	92,390	219,780	150,486	69,294	
	企 業 債 償 還 金	540,853	256,567	284,286	524,029	252,794	271,235	
	長 期 貸 付 金	11,160	5,580	5,580	9,500	4,825	4,675	
	合 計	781,988	399,732	382,256	753,309	408,105	345,204	

別表 34

病院事業損益計算書（税抜）

（単位：千円）

区 分	年 度	令和3年度			令和2年度			対前年比(R3-R2)			対前年度比 計 (%) R3/R2 *100-100
		計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院	
病院事業収益	(A)	7,490,157	4,532,752	2,957,405	7,175,995	4,309,554	2,866,441	314,162	223,198	90,964	4.4
医業収益		6,050,888	3,601,298	2,449,590	5,815,456	3,602,652	2,212,804	235,432	△ 1,354	236,786	4.0
入院収益		3,187,143	1,697,641	1,489,502	3,076,780	1,739,315	1,337,465	110,363	△ 41,674	152,037	3.6
外来収益		2,123,628	1,452,914	670,714	2,106,949	1,480,088	626,861	16,679	△ 27,174	43,853	0.8
他会計負担金		441,412	250,745	190,667	395,802	214,697	181,105	45,610	36,048	9,562	11.5
その他医業収益		298,705	199,998	98,707	235,925	168,552	67,373	62,780	31,446	31,334	26.6
医業外収益		1,178,877	802,192	376,685	892,316	484,694	407,622	286,561	317,498	△ 30,937	32.1
受取利息配当金		5	4	1	5	3	2	0	1	△ 1	0.0
他会計補助金		0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
補助金		585,632	486,529	99,103	125,749	57,570	68,179	459,883	428,959	30,924	365.7
負担金交付金		477,239	266,748	210,491	504,506	281,599	222,907	△ 27,267	△ 14,851	△ 12,416	△ 5.4
患者外給食収益		1,698	1,567	131	1,653	1,477	176	45	90	△ 45	2.7
長期前受金戻入		70,104	33,342	36,762	209,971	125,858	84,113	△ 139,867	△ 92,516	△ 47,351	△ 66.6
その他医業外収益		44,199	14,002	30,197	50,432	18,187	32,245	△ 6,233	△ 4,185	△ 2,048	△ 12.4
訪問看護事業収益		211,252	124,939	86,313	210,628	132,438	78,190	624	△ 7,499	8,123	0.3
訪問看護療養費収益		194,981	115,863	79,118	194,937	122,436	72,501	44	△ 6,573	6,617	0.0
利用料収益		16,271	9,076	7,195	15,691	10,002	5,689	580	△ 926	1,506	3.7
通所リハビリテーション事業収益		41,817		41,817	36,693		36,693	5,124		5,124	14.0
通所リハビリテーション療養費収益		35,151		35,151	30,799		30,799	4,352		4,352	14.1
利用料収益		6,666		6,666	5,894		5,894	772		772	13.1
特別利益		7,323	4,323	3,000	220,902	89,770	131,132	△ 213,579	△ 85,447	△ 128,132	△ 96.7
過年度損益修正益		0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
長期前受金戻入		0	0	0	80,243	20,412	59,831	△ 80,243	△ 20,412	△ 59,831	△ 100.0
その他特別利益		7,323	4,323	3,000	140,659	69,358	71,301	△ 133,336	△ 65,035	△ 68,301	△ 94.8

(単位：千円)

区 分	年 度	令和3年度			令和2年度			対前年比(R3-R2)			対前年度比 計 (%) R3/R2 *100-100
		計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院	
病院事業費用 (B)		7,473,453	4,526,806	2,946,647	7,382,020	4,536,042	2,845,978	91,433	△ 9,236	100,669	1.2
医業費用		6,942,609	4,208,237	2,734,372	6,734,698	4,147,063	2,587,635	207,911	61,174	146,737	3.1
給与費		3,977,713	2,212,410	1,765,303	3,875,953	2,179,528	1,696,425	101,760	32,882	68,878	2.6
材料費		1,364,351	1,052,447	311,904	1,379,450	1,061,689	317,761	△ 15,099	△ 9,242	△ 5,857	△ 1.1
経 費		1,019,676	503,317	516,359	898,112	464,640	433,472	121,564	38,677	82,887	13.5
減価償却費		561,346	429,484	131,862	567,174	433,221	133,953	△ 5,828	△ 3,737	△ 2,091	△ 1.0
資産減耗費		4,312	3,086	1,226	2,146	1,650	496	2,166	1,436	730	100.9
研究研修費		15,211	7,493	7,718	11,863	6,335	5,528	3,348	1,158	2,190	28.2
医業外費用		327,866	218,572	109,294	323,587	217,097	106,490	4,279	1,475	2,804	1.3
支払利息及び企業債取 扱諸費		55,207	34,988	20,219	61,864	36,452	25,412	△ 6,657	△ 1,464	△ 5,193	△ 10.8
長期前払消費税償却		41,836	32,200	9,636	41,058	31,828	9,230	778	372	406	1.9
患者外給食材料費		1,727	1,567	160	1,531	1,477	54	196	90	106	12.8
雑損失		229,096	149,817	79,279	219,134	147,340	71,794	9,962	2,477	7,485	4.5
訪問看護事業費用		159,425	97,897	61,528	155,734	105,279	50,455	3,691	△ 7,382	11,073	2.4
給与費		153,320	93,622	59,698	149,358	100,477	48,881	3,962	△ 6,855	10,817	2.7
材料費		188	97	91	95	95	0	93	2	91	97.9
経 費		5,828	4,115	1,713	6,160	4,636	1,524	△ 332	△ 521	189	△ 5.4
研究研修費		89	63	26	121	71	50	△ 32	△ 8	△ 24	△ 26.4
通所リハビリテーション事 業費用		30,676		30,676	32,998		32,998	△ 2,322		△ 2,322	△ 7.0
給与費		27,421		27,421	30,941		30,941	△ 3,520		△ 3,520	△ 11.4
材料費		1,282		1,282	713		713	569		569	79.8
経 費		1,909		1,909	1,331		1,331	578		578	43.4
研究研修費		64		64	13		13	51		51	392.3
特別損失		12,877	2,100	10,777	135,003	66,603	68,400	△ 122,126	△ 64,503	△ 57,623	△ 90.5
過年度損益修正損		0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
その他特別損失		12,877	2,100	10,777	135,003	66,603	68,400	△ 122,126	△ 64,503	△ 57,623	△ 90.5
当年度純損益 (A)-(B)		16,704	5,946	10,758	△ 206,025	△ 226,488	20,463	222,729	232,434	△ 9,705	△ 108.1
当年度未処理欠損金		3,380,660	1,848,087	1,532,573	3,397,364	1,854,033	1,543,331	△ 16,704	△ 5,946	△ 10,758	△ 0.5
総収益対総費用比率 (A)/(B)		100.2	100.1	100.4	97.2	95.0	100.7	3.0	5.1	△ 0.3	

(注) 制度改正に伴い、平成26年度以降の当年度未処理欠損金は、(前年度繰越欠損金+当年度純損益-その他未処分利益剰余金変動額)により計算

別表 35

病院事業資産

(単位：千円)

区 分	年 度	令和3年度末 償却未済高			令和2年度末 償却未済高		
		計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院
固定資産		7,817,752	6,047,290	1,770,462	8,205,933	6,386,712	1,819,221
有形固定資産		7,403,680	5,707,981	1,695,699	7,772,281	6,027,755	1,744,526
土地		511,889	101,999	409,890	511,888	101,998	409,890
建物		5,513,934	4,581,154	932,780	5,803,781	4,810,572	993,209
構築物		238,796	211,028	27,768	256,715	226,807	29,908
器械及び備品		1,097,189	779,233	317,956	1,150,647	845,750	304,897
車両		13,431	6,126	7,305	13,764	7,142	6,622
リース資産		25,512	25,512	0	35,486	35,486	0
その他有形固定資産		0	0	0	0	0	0
建設仮勘定		2,929	2,929	0	0	0	0
無形固定資産		1,649	523	1,126	1,788	523	1,265
電話加入権		523	523	0	523	523	0
ソフトウェア		0	0	0	0	0	0
下水道利用権		1,126	0	1,126	1,265	0	1,265
投資		412,423	338,786	73,637	431,864	358,434	73,430
長期貸付金		49,460	24,730	24,730	45,475	22,738	22,737
長期前払消費税		362,963	314,056	48,907	386,389	335,696	50,693
流動資産		1,400,700	882,970	517,730	1,311,933	804,916	507,017
現金預金		335,206	221,053	114,153	317,951	212,088	105,863
未収金		1,035,939	645,168	390,771	970,889	579,495	391,394
貯蔵品		29,464	16,658	12,806	23,027	13,267	9,760
その他流動資産		91	91	0	66	66	0
合 計		9,218,452	6,930,260	2,288,192	9,517,866	7,191,628	2,326,238

別表 36

病院事業負債

(単位：千円)

区 分	年 度	令和3年度末 現在高			令和2年度末 現在高		
		計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院
固定負債		6,248,078	5,443,512	804,566	6,610,711	5,615,922	994,789
企業債		6,242,730	5,438,164	804,566	6,596,073	5,601,284	994,789
リース債務		5,348	5,348	0	14,638	14,638	0
流動負債		1,932,890	969,947	962,943	2,185,742	1,204,751	980,991
一時借入金		760,000	300,000	460,000	1,050,000	570,000	480,000
企業債		566,243	282,420	283,823	540,853	256,567	284,286
リース債務		9,291	9,291	0	13,586	13,586	0
未払金		349,816	234,908	114,908	334,008	221,133	112,875
引当金		231,174	129,939	101,235	232,399	130,626	101,773
その他流動負債		16,366	13,389	2,977	14,896	12,839	2,057
繰延収益		585,986	360,936	225,050	632,977	381,207	251,770
長期前受金		4,458,779	2,212,780	2,245,999	4,466,502	2,217,827	2,248,675
長期前受金収益化累計額		△ 3,872,793	△ 1,851,844	△ 2,020,949	△ 3,833,525	△ 1,836,620	△ 1,996,905
負債合計 (ア)		8,766,954	6,774,395	1,992,559	9,429,430	7,201,880	2,227,550

別表 37

病院事業資本金

(単位：千円)

区 分	年 度	令和3年度決算額			令和2年度決算額		
		計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院
固有資本金		28,065	15,532	12,533	28,065	15,532	12,533
出 資 金		1,023,861	471,147	552,714	698,437	315,539	382,898
組入資本金		397,421	397,421	0	397,420	397,420	0
資本金合計 (イ)		1,449,347	884,100	565,247	1,123,922	728,491	395,431

別表 38

病院事業剰余金

(単位：千円)

区 分	年 度	令和3年度決算額			令和2年度決算額		
		計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院
資本剰余金		2,382,811	1,119,853	1,262,958	2,361,878	1,115,290	1,246,588
受贈財産評価額		51,061	8,440	42,621	51,061	8,440	42,621
寄 附 金		8,075	6,075	2,000	8,075	6,075	2,000
他会計負担金		1,816,541	681,646	1,134,895	1,816,541	681,646	1,134,895
補 助 金		393,359	383,151	10,208	393,360	383,151	10,209
その他資本剰余金		113,775	40,541	73,234	92,841	35,978	56,863
利益剰余金 (a+b+c-d)		△ 3,380,660	△ 1,848,088	△ 1,532,572	△ 3,397,364	△ 1,854,033	△ 1,543,331
減債積立金 a		0	0	0	0	0	0
利益積立金 b		0	0	0	0	0	0
建設改良積立金 c		0	0	0	0	0	0
当年度未処理欠損金 d		3,380,660	1,848,088	1,532,572	3,397,364	1,854,033	1,543,331
(うち当年度純損益)		(16,704)	(5,946)	(10,758)	(△ 206,025)	(△ 226,488)	(20,463)
剰余金合計 (ウ)		△ 997,849	△ 728,235	△ 269,614	△ 1,035,486	△ 738,743	△ 296,743

資本合計 (イ)+(ウ)	451,498	155,865	295,633	88,436	△ 10,252	98,688
負債資本合計 (ア)+(イ)+(ウ)	9,218,452	6,930,260	2,288,192	9,517,866	7,191,628	2,326,238